

起きて振幅低下が起きてしまう。さらに ALS などの病的状態では特に下降性 volley の非同期性が增大することも報告されている。この Multiple descending volleys の影響がなくなれば単純な振幅比で皮質脊髄路機能を定量化できるだろうとして考えられたのが1998年に Magistris により始めて報告された Triple stimulation technique (TST) である⁴⁾。TMS では避けられない下降性 volley の非同期性を回避することができること、上位運動ニューロンの異常をより顕著に検出できる中枢伝導時間の計測などによる方法と比較して2.75倍の検出率があるとされる⁵⁾。本稿では TST を脊髄小脳変性症、パーキンソン類縁疾患での皮質脊髄路機能の検討

脊髄小脳変性症、パーキンソン類縁疾患での皮質脊髄路機能の検討

P/Q 型 Ca チャンネル遺伝子の CAG リピート伸長が確認された脊髄小脳失調症 6 型 (SCA6) 7 例 (56~77歳; 68.4±7.0歳)、Parkin 遺伝子変異が確認された PARK2 3 例 (63~67歳; 64.3±2.3歳) と年齢をマッチさせた健常成人 (35~84歳; 66.0±15.8歳) を対象とした。

被験者はベッド上で仰臥位とし、不必要な筋収縮を防ぐために右 3~5 指をテープで固定し、さらに前腕部には 2 kg の砂嚢を置いた。前腕部は 10×40cm の固定板上にベルクロテープで固定した。CMAP の記録は 0 背側手骨間筋から行った。筋電図は 5 Hz~10kHz の band pass フィルターで取り込み増幅した。AD コンバータ (micro 1401; Cambridge Electronic Design) を介して 1 試行につき刺激前 25ms と刺激後 400ms を取り込み、保存した。

TST は TMS, Erb's 点電気刺激、手首部末梢神経電気刺激を適切な時間差で組み合わせることにより皮質脊髄路機能を定量する方法である。TMS は 8 の字コイルを用い左大脳半球の手の運動野に与えた。Erb's 点電気刺激は Erb's 点をカソードとし肩甲上窩をアノードとし 1.5×2.0cm のディス

ポーザブル電極で刺激を与えた。手首部末梢神経電気刺激は尺骨神経手首部をバー電極で刺激を与えた。それぞれの刺激のタイミングは 3 チャンネルの外部タイマー (SEN-7203, Nihon Koden) を用いて行った。最初に運動野への TMS を行い、その下行性 volley が手首部に到達する直前の時間を見計らって (Delay I) 手首部を刺激した。さらに手首部刺激で発生した上行性 volley が Erb's 点に到達する直前を見計らって (Delay II) Erb's 点を電気刺激した。各々の時間差は以下の計算式で決定した⁴⁾。

Delay I = MEP 潜時 - 手首部刺激 CMAP 潜時

Delay II = Erb's 点刺激 CMAP 潜時 - 手首部刺激 CMAP 潜時

対照としては第 1 刺激を Erb's 点刺激に置き換えて得られた振幅比で TST ratio を計算した。

また、古典的な皮質脊髄路評価法としての CMCT は以下の計算式で行い TST との比較を行った⁶⁾。

CMCT = MEP 潜時 - (手首部刺激 CMAP 潜時 + 手首部刺激 F 波潜時 - 1) / 2

結 果

TST ratio は SCA6 では 0.77±0.15 と健常対照群の 0.95±0.11 と比べて有意に低値であった (図 1, 2)。CMCT は SCA6 では 7.1±1.7ms に対して健常対照群では 6.1±1.2ms と有意差はなかった。PARK2 においては検索した 3 例全例において TST ratio は有意に低値であった。疾患対照として計測したパーキンソン病 7 例のうち 6 例では TST ratio は正常であった (図 2)。

考 察

今回検討した SCA6 と PARK2 においては錐体路障害は主たる症候とは考えられないが、こうした疾患において TST を用いて客観的に皮質脊髄路機能障害を検出したことが新しい。第 1 刺激である TMS は descending volleys 同期性が十分でな

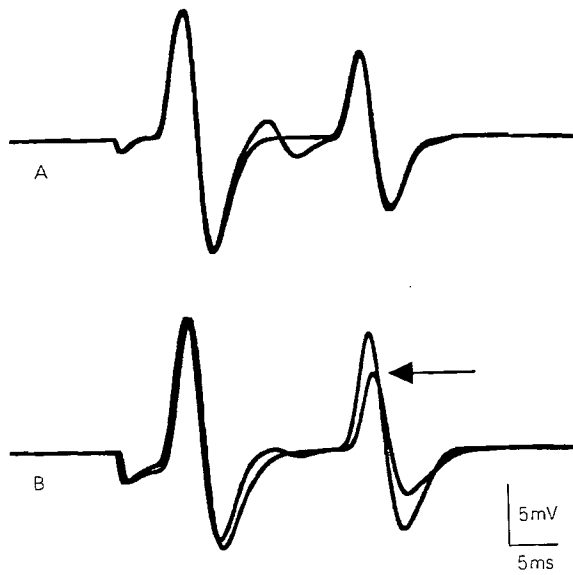


図1 健常対照 (A) と SCA6患者 (B) から記録した TST の典型例

この図では第1刺激を Erb's 点にした TST control curve と第1刺激を大脳皮質運動野への TMS にした TST test curve を重畳してある。健常対照では両者は完全に一致し、TST ratio は0.96であるが、SCA6では0.66となる (矢印)。TST では2つのピークが得られる。第1のピークは第2刺激の末梢神経手首部電気刺激による第1背側手骨間筋から導出した CMAP である。第1刺激の TMS による MEP は第2刺激により相殺されるので、第1背側手骨間筋からは導出されない。第2のピークは第3刺激である Erb's 点を電気刺激した場合の第1背側手骨間筋から導出した CMAP である。この第2のピークは皮質脊髄路機能障害時には振幅が低下 (矢印) する。第1刺激を Erb's 点電気刺激に置き換えたものを対照として振幅比 (TST ratio) を算出する。

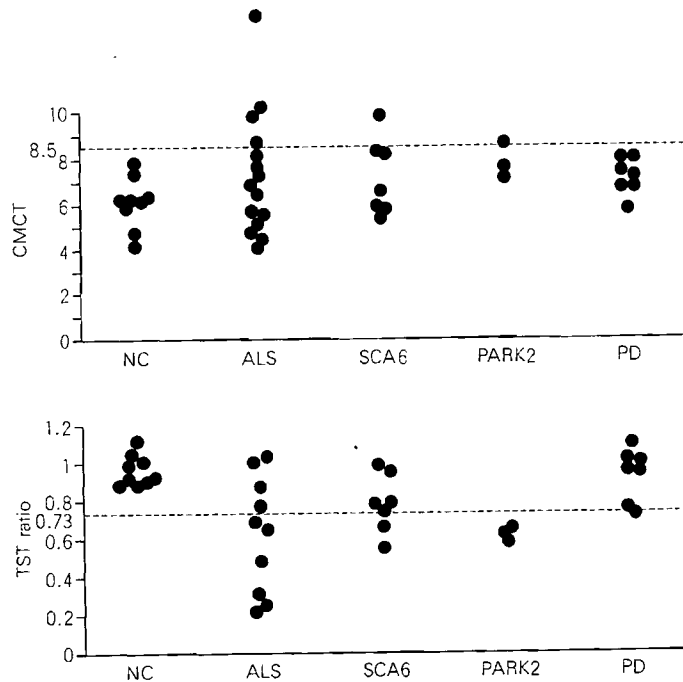


図2 各疾患における CMCT (<8.5) と TST ratio (>0.73) SCA6 および PARK2 においては有意に TST ratio が異常である。疾患対照の PD では PARK2 に見られる異常はない。点線は CMCT および TST ratio においてそれぞれ mean + 3SD および mean - 3SD をあらわす。

いため単純にその振幅で皮質脊髄路機能を定量することは実際上できない。しかし、この3者刺激を行うことで Multiple descending volleys の要素

が相殺され振幅比で皮質脊髄路機能を定量できる。結果として TST 異常は上位運動ニューロン数の減少、中枢性軸索障害、中枢性の伝導ブロック、

TMS に対する低応答性を反映する²¹。TST の欠点としては3チャンネルの刺激制御装置など一般の臨床現場に常備されていない機器が必要なことや Erb's 点刺激において上肢全体が飛び跳ねるように動くため、被験者に不快感を与えることがあるので、前もって十分に患者に説明が必要な点がある。欧米ではTSTがプログラムを組み込まれた臨床筋電計が発売されており、今後のルーチン検査としての普及が期待される。

1. SCA6における皮質脊髄路機能異常

SCA6は電位依存性カルシウムチャンネルの $\alpha 1A$ サブユニット遺伝子内(CACNA1A)のCAGリピートの異常伸長により診断され、平均発症年齢は45歳(20~66歳)である。臨床的には、ほぼ純粋に小脳症状のみを呈する(pure cerebellar syndrome)とされており、MRIで小脳虫部および上面の高度の萎縮が認められる。しかし錐体路症状が3.3%から53%に認められると報告されている。病理学的には小脳皮質でのプルキンエ細胞の脱落、顆粒細胞の軽度脱落、分子層の軽度のひ薄化が報告されており、障害が皮質脊髄路に及んだとの報告はない。それでは臨床的に、また、今回検討したTSTで明らかな錐体路障害がとらえられるのはなぜだろうか。そこでCrossed cerebellar diaschisisによる運動野の機能障害とCACNA1A mutationsが運動野の機能障害をきたすという2つの仮説を立てて考察する。

Crossed cerebellar diaschisisはテント上の局在性の病変、多くは脳梗塞により反対側の小脳の血流あるいは代謝の低下をきたすものである⁷⁾。SCA6では大脳の糖代謝の低下がPETで示されたとの報告があり天幕下に主病変があってもreversed crossed cerebellar diaschisisとして運動野の機能障害をきたす可能性があり、今回の皮質脊髄路機能異常となったと考えられる⁸⁾⁹⁾。

もうひとつの仮説としてCACNA1A mutationsとの関連も注目される。CACNA1A mutationに関連する疾患のひとつとして家族性片麻痺性片頭痛がある。前兆を伴う片頭痛の一種として分類され、

片頭痛発作の前兆として錐体路障害、すなわち片麻痺があるのが特徴である。1996年にOphoffらによりP/Q-type Ca²⁺ channel $\alpha 1$ subunit (CACNA1A)の点変異であることが証明された。

もうひとつのCACNA1A mutation関連疾患としては反復発作性失調症2型がある。これは発作性の小脳失調を呈する疾患であり6週から40歳で発症し優性遺伝形式をとる。ストレスや運動、コーヒーなどの飲用がtriggerとなる。めまい、眼振、頭痛をきたすものもあり、頭痛、失調が固定するものもある。画像では小脳虫部の萎縮を認める。これら、CACNA1A mutations関連疾患3種のphenotypeには似た部分があることがわかる¹⁰⁾¹¹⁾。すなわち、家族性片麻痺性片頭痛のような錐体路障害の症状をきたすものの存在からCACNA1A遺伝子そのものに錐体路に障害をきたす性質が存在することを推定させる¹²⁾。

2. PARK2における皮質脊髄路機能異常

PARK2はparkin遺伝子変異による疾患で常染色体劣性遺伝形式の若年性パーキンソン症を呈する。ParkinはE3ユビキチンリガーゼとして機能し、その障害はユビキチン・プロテアソーム系の障害をきたすことが知られている。通常のidiopathic Parkinson diseaseとの相違点として、PARK2では発症年齢が若いこと、腱反射亢進が40%に見られること、足のジストニアが多く、認知症がまったくない、感覚障害を認めること、睡眠効果といった特殊な症状変動を認めること、L-Dopaの効果がパーキンソン病より良いこと、進行が遅く、Yahr重症度も低値であることがあげられる。

イタリアのグループが最近4例のPARK2においてCMCTを測定したところ3例で異常であったと報告している¹³⁾。われわれの検討ではそこまでの異常はCMCTでは検出しえないが、同様に皮質脊髄路機能異常を考える意味で興味深い結果といえる。

病理学的にはPARK2では黒質以外にも変化が見られることが判っている。大脳皮質や脳幹に神

経原線維変化, 銀親和性のアストロサイトが見られるとの報告. spinocerebellar system の細胞脱落. Meynert や amygdalo-hippocampal region に Lewy が出現すると言う報告. MRI で内包後脚に T2 高信号を認めた例等の報告があり¹³⁾, 少なくともパーキンソン病とは異なる病理変化が存在する. 疾患対照のパーキンソン病では明らかでない皮質脊髄路機能異常はこのような病理変化を反映しているものと考えられることができる.

3. TST の展望

TST は ALS や多発性硬化症の診断および評価に用いた研究報告が多い. 特殊な応用例では通常の

方法では伝導ブロックの検出できない多巣性運動ニューロパチーにおいて TST 法で近位側の伝導ブロックを確認したとの報告があり, これまでは軸索型の多巣性運動ニューロパチーと考えられていた症例で免疫グロブリン大量静注療法が著効したとの報告がある¹⁴⁾. また MSA-p では 70% で異常. IPD との鑑別に有用との報告もある¹⁵⁾.

これまで客観評価の困難であった皮質脊髄路の機能異常の検出において TST は有用であり, 変性性神経疾患, 免疫性神経疾患の鑑別および治療選択に有効である可能性がある.

本稿で述べた要旨は第 36 回日本臨床神経生理学学会 (2006 年 11 月, 横浜) において発表した.

文 献

- 1) Mills KR: The natural history of central motor abnormalities in amyotrophic lateral sclerosis. *Brain* 126: 2558-2566, 2003.
- 2) Rosler KM, Truffert A, Hess CW et al: Quantification of upper motor neuron loss in amyotrophic lateral sclerosis. *Clin Neurophysiol* 111: 2208-2218, 2000.
- 3) Marsden CD, Merton PA, Morton HB: Direct electrical stimulation of corticospinal pathways through the intact scalp in human subjects. *Adv Neurol* 39: 387-391, 1983.
- 4) Magistris MR, Rosler KM, Truffert A et al: Transcranial stimulation excites virtually all motor neurons supplying the target muscle. A demonstration and a method improving the study of motor evoked potentials. *Brain* 121 (Pt 3): 437-450, 1998.
- 5) Magistris MR, Rosler KM, Truffert A et al: A clinical study of motor evoked potentials using a triple stimulation technique. *Brain* 122 (Pt 2): 265-279, 1999.
- 6) Rossini PM, Marciani MG, Caramia M et al: Nervous propagation along 'central' motor pathways in intact man: characteristics of motor responses to 'bifocal' and 'unifocal' spine and scalp non-invasive stimulation. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 61: 272-286, 1985.
- 7) Infeld B, Davis SM, Lichtenstein M et al: Crossed cerebellar diaschisis and brain recovery after stroke. *Stroke* 26: 90-95, 1995.
- 8) Broich K, Hartmann A, Biersack HJ et al: Crossed cerebello-cerebral diaschisis in a patient with cerebellar infarction. *Neurosci Lett* 83: 7-12, 1987.
- 9) Komaba Y, Osono E, Kitamura S et al: Crossed cerebellocerebral diaschisis in patients with cerebellar stroke. *Acta Neurol Scand* 101: 8-12, 2000.
- 10) Jen JC, Yue Q, Karrim J, Nelson SF et al: Spinocerebellar ataxia type 6 with positional vertigo and acetazolamide responsive episodic ataxia. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 65: 565-568, 1998.
- 11) Spadaro M, Ursu S, Lehmann-Horn F et al: A G301R Na(+)/K(+)-ATPase mutation causes familial hemiplegic migraine type 2 with cerebellar signs. *Neurogenetics* 5: 177-185, 2004.
- 12) Sakuma K, Adachi Y, Fukuda H et al: Triple stimulation technique in patients with spinocerebellar ataxia type 6. *Clin Neurophysiol* 116: 2586-2591, 2005.
- 13) De Rosa A, Volpe G, Marcantonio L et al: Neurophysiological evidence of corticospinal tract abnormality in patients with Parkin mutations. *J Neurol* 253: 275-279, 2006.
- 14) Attarian S, Azulay JP, Verschuere A et al: Magnetic stimulation using a triple-stimulation technique in patients with multifocal neuropathy without conduction block. *Muscle Nerve* 32: 710-714, 2005.
- 15) Eusebio A, Azulay JP, Witjas T et al: Assessment of cortico-spinal tract impairment in multiple system atrophy using transcranial magnetic stimulation. *Clin Neurophysiol* 118: 815-823, 2007.

High-frequency oscillations change in parallel with short-interval intracortical inhibition after theta burst magnetic stimulation

Takenobu Murakami ^{a,*}, Kenji Sakuma ^a, Takashi Nomura ^a,
Kenji Nakashima ^a, Isao Hashimoto ^b

^a Department of Neurology, Institute of Neurological Sciences, Faculty of Medicine, Tottori University, 36-1 Nishicho, Yonago 683-8504, Japan

^b Kanazawa Institute of Technology, Tokyo, Japan

Accepted 19 October 2007

Abstract

Objective: Theta burst transcranial magnetic stimulation (TBS) causes changes in motor cortical excitability. In the present study, somatosensory-evoked potentials (SEPs) and high-frequency oscillations (HFOs) were recorded before and after TBS over the motor cortex to examine how TBS influenced the somatosensory cortex.

Methods: SEPs following electric median nerve stimulation were recorded, and amplitudes for the P14, N20, P25, and N33 components were measured and analyzed. HFOs were separated by 400–800 Hz band-pass filtering, and root-mean-square amplitudes were calculated from onset to offset. SEPs and HFOs were measured before and after application of either intermittent or continuous TBS (iTBS/cTBS; 600 total pulses at 80% active motor threshold) over the motor cortex. Motor-evoked potentials (MEPs) and short-interval intracortical inhibition (SICI) of the first dorsal interosseous muscle were examined before and after TBS.

Results: MEPs, SICI, and HFO amplitudes were increased and decreased significantly after iTBS and cTBS, respectively. Wide-band SEPs did not change significantly after TBS.

Conclusions: TBS changed the cortical excitability of the sensorimotor cortices. Changes in HFOs after TBS were parallel to those in SICI.

Significance: The mechanisms of changes in HFOs after TBS may be the same as those in SICI.

© 2007 International Federation of Clinical Neurophysiology. Published by Elsevier Ireland Ltd. All rights reserved.

Keywords: High-frequency oscillations; Short-interval intracortical inhibition; Theta burst stimulation; GABAergic inhibitory interneurons

1. Introduction

Low-amplitude, high-frequency oscillations (HFOs) of 500–800 Hz superimposed on the ascending slope of the N20 primary response following stimulation of the median nerve have attracted increasing attention in the past several years (Curio et al., 1994; Hashimoto et al., 1996). Although studies using electroencephalography (EEG) or magnetoencephalography (MEG) provided a wide range of information about the generators of these high-frequency wavelets, from the thalamus (Eisen et al., 1984; Kloster-

mann et al., 2002) and thalamocortical presynaptic action potentials (Gobbele et al., 1998) to the somatosensory cortex (Curio et al., 1997; Hashimoto et al., 1999; Sakuma and Hashimoto, 1999; Sakuma et al., 1999, 2004; Shimazu et al., 2000), the precise anatomical location of the generator remains unclear. Hashimoto and colleagues hypothesized that HFOs represented a localized activity of the GABAergic inhibitory interneurons in layer 4 of area 3b, whereas the N20 component was considered to be generated by excitatory postsynaptic potentials of pyramidal neurons (Hashimoto et al., 1996).

Transcranial magnetic stimulation (TMS) not only is an important noninvasive method for neurophysiological investigation of the corticospinal tract in humans, but also

* Corresponding author. Tel.: +81 859 38-6757; fax: +81 859 38 6759.
E-mail address: takebou@grape.med.tottori-u.ac.jp (T. Murakami).

is a useful tool for the treatment of neurological and psychiatric disorders. Repetitive TMS (rTMS) has been used for neurophysiological examinations and treatments of neuropsychiatric diseases (Lefaucheur et al., 2004; Pascual-Leone et al., 1994a,b, 1996). The effects of rTMS generally depend on the stimulus frequency; low-frequency (<1 Hz) rTMS decreases cortical excitability (Chen et al., 1997; Gerschlagler et al., 2001), while high-frequency (>1 Hz) rTMS can increase cortical excitability (Di Lazzaro et al., 2002; Matsunaga et al., 2005). Recently, a new rTMS protocol, theta burst stimulation (TBS), was introduced. Intermittent or continuous TBS (iTBS/cTBS) over the motor cortex increased/decreased, respectively, both motor-evoked potentials (MEPs) and short-interval intracortical inhibition (SICI) (Huang et al., 2005). cTBS over the occipital cortex increased the phosphene threshold (Franca et al., 2006), and this finding revealed that TBS changed the cortical excitabilities in the sensory system as well as in the motor system.

rTMS affected somatosensory-evoked potentials (SEPs) and HFOs. For example, 1 Hz rTMS over the motor cortex suppressed the N20–P25 and P25–N33 amplitudes (Enomoto et al., 2001). Results of a recent study showed that cTBS over the sensorimotor cortices affected the cortical components of SEPs (Ishikawa et al., 2007). HFOs were increased significantly after 0.5 Hz rTMS over the somatosensory cortex, whereas SEPs were not changed (Ogawa et al., 2004). We hypothesized that TBS over the motor cortex affected the somatosensory cortex, because of the dense cortico-cortical connections between motor and somatosensory cortices (Enomoto et al., 2001). Furthermore, we speculated that HFOs as well as SICI might be affected by TBS, because both HFOs and SICI may reflect the functions of GABAergic inhibitory interneurons (Chen et al., 1998; Hashimoto et al., 1996; Kujirai et al., 1993; Ziemann et al., 1998b; Ziemann, 2004). In the present study, we recorded SEPs and HFOs before and after TBS sessions (iTBS and cTBS) and examined how TBS over the motor cortex influenced the somatosensory cortex.

2. Methods

2.1. Subjects

We studied 28 right-handed healthy volunteers (15 women, 13 men), ages 21–39 years (mean age, 27.1 ± 4.8 years). None had a history of physical or neurological illness. Some subjects took part in more than one experiment. This study was approved by the Human Ethics Committee of Tottori University and was conducted in accordance with the Declaration of Helsinki. All participants gave their informed consent prior to participation.

2.2. TBS protocol

rTMS over the left primary motor cortex was applied using the Magstim Super Rapid magnetic stimulator

(Magstim Co., Dyfed, Wales). The magnetic stimulus had a biphasic waveform with a pulse width of 200 μ s. The coil with a figure-of-eight and external loop diameters of 80 mm (Magstim Co., Dyfed, Wales) was held tangentially to the skull, with the handle pointing backward and laterally at a 45-deg angle to the sagittal plane. The center of the linear contiguous segment of the coil was placed over the hand area of the left motor cortex. Intensities were expressed as a percentage of the maximum output of the stimulator. The stimulation intensity was defined in relation to the active motor threshold (AMT). The AMT was evaluated as the minimum single pulse intensity required to produce an MEP greater than 200 μ V on more than five of 10 trials from the right first dorsal interosseous (FDI) muscle while the subject was maintaining a voluntary contraction of about 20% of maximum using visual feedback.

TBS paradigms were safe in normal subjects and capable of producing consistent, rapid, and controllable electrophysiological and behavioral changes in the function of the human motor system. The pattern of delivery of TBS (continuous vs. intermittent) was crucial in determining the direction of change in synaptic efficacy (Huang et al., 2005). According to the Huang's report (Huang et al., 2005), rTMS was performed using the TBS pattern in which three pulses of stimulation were given at 50 Hz, repeated every 200 ms for a total of 600 pulses delivered over the motor cortex. In the iTBS pattern, a 2-s train of TBS was repeated every 10 s for a total 190 s. In the cTBS pattern, a 40-s train of uninterrupted TBS was given. The stimulus intensity was set at 80% of the AMT.

2.3. Experimental protocols

2.3.1. Experiment 1: the effects of TBS on SEPs and HFOs

Sixteen subjects participated in the SEP experiments. Six subjects participated in the "iTBS over the motor cortex" paradigm, and 6 subjects participated in the "cTBS over the motor cortex" paradigm, with 4 subjects participating in both experiments on different days. These experiments were conducted at least one month apart.

Subjects lay supine on the bed and were instructed to stay awake with their eyes closed and to pay no attention to the stimuli to avoid sleepiness due to monotonous presentation of stimulus (Ogawa et al., 2004). Alertness was monitored by EEG recording. When a subject became drowsy or sleepy, recordings were stopped, and they were re-started when the subject was completely awake after a nap (Mochizuki et al., 2003). Electrical stimuli of 0.2 ms duration were delivered alternately to the bilateral median nerves at the wrists (cathode proximal). The stimulus intensity was adjusted to three times the sensory threshold so as to induce a small muscular twitch in the thenar muscles. The stimuli were delivered at irregular intervals, with interstimulus intervals (ISIs) between 211 and 262 ms. Recording electrodes were placed on C3' (2 cm posterior to C3), C4' (2 cm posterior to C4), and Fz of the International

10–20 System. Electrode impedance was maintained below 5 k Ω . EEGs were recorded from C3'–Fz and C4'–Fz using a 0.3–3000 Hz band-pass filter, then digitized with an analogue-to-digital converter (micro1401, CED, Cambridge, UK) at a sampling rate of 20 kHz and stored on a personal computer for further analysis. We used a C3'–Fz and C4'–Fz montage for recording HFOs, because it has been shown from previous studies to be appropriate (Mochizuki et al., 1999; Sakuma et al., 2004). SEPs with an epoch of 50 ms duration were recorded before and immediately after TBS. In total, responses to 5000 stimuli were recorded, which took about 20 min. Responses to each of the first 2500 stimuli (R1) and the second 2500 stimuli (R2), as well as to all 5000 stimuli (R1 + R2), were averaged offline using Spike2 software (CED, Cambridge, UK). For separation of HFOs from the underlying N20, the digitized wide-band signal was band-pass filtered (400–800 Hz) digitally and averaged. In wide-band recordings, amplitudes of the P14 peak to the N20 peak (P14–N20), the N20 peak to the P25 peak (N20–P25), and the P25 peak to the N33 peak (P25–N33) from C3'–Fz and C4'–Fz were measured and analyzed (Fig. 1A). The size of the HFOs was calculated from their root-mean-square amplitude from their onset to their offset. Onset/offset criteria for HFOs were defined as their amplitudes exceeding the averaged background noise level for the subject's control session by three standard deviations. All of these parameters were separated into two parts: (1) early HFOs (onset to N20 peak) and (2) late HFOs (N20 peak to offset), as shown in Fig. 1B.

2.4. Experiment 2: the effects of TBS on motor cortical excitability

Motor cortical excitability was assessed in 12 subjects (6 subjects with iTBS, 6 subjects with cTBS). TMS was performed using a round coil with external diameters of

130 mm (Magstim Co., Dyfed, Wales) connected to a Magstim 200 stimulator (Magstim Co., Whitland, Dyfed, UK). The coil was positioned over the vertex in the optimal scalp position that would elicit motor responses in the right FDI muscle. The resting motor threshold (RMT) was defined as the intensity of stimulation that elicits at least 5 MEPs of 50 μ V in 10 trials from the right FDI muscle (Rossini et al., 1994). The MEP amplitude was measured by using the stimulator intensity sufficient to evoke a peak-to-peak amplitude of 1 mV in the relaxed FDI muscle. SICI was measured using the paired-pulse method (Kujirai et al., 1993). In the original work on TBS, the authors suggest that the activity of SICI reflects the function of GABAergic interneurons; therefore, we used a similar experimental design where SICI was evaluated at an ISI of 2 ms (Huang et al., 2005, in press). The conditioning stimulus intensity was set at 80% RMT for SICI. The test stimulus intensity was set at a peak-to-peak amplitude of 1 mV of the MEP in the relaxed FDI muscle. The stimulation rate was about 0.1 Hz, and it took about 5 min to record 30 trials for 2 parameters (15 trials for each parameter were recorded and averaged). The order of presentation of the MEP (test stimulation only) and SICI (ISI = 2 ms) intervals was randomized by a computer program (Spike2, CED, Cambridge, UK). MEPs and SICI were recorded from the FDI muscle by a pair of 2 \times 2 cm Ag–AgCl disposable surface electrodes in a belly-tendon montage. The electromyogram was recorded from a pair of electrodes and filtered (50–200 Hz), then digitized with an analogue-to-digital converter (micro1401, CED, Cambridge, UK) at a sampling rate of 10 kHz and stored on a personal computer. Each parameter was measured before, 0–5, 10–15, 20–25, and 30–35 min after the TBS session.

2.5. Statistical analysis

Data were analyzed using SPSS for Windows version 14.0. The individual SEP and HFO values for each subject were evaluated using a three-way analysis of variance (ANOVA) of mixed design with the within-subject factors of Time (before TBS vs. after TBS: R1 and R2, R1 + R2) and Recording Site (C3' vs. C4') and the between-subject factor of Intervention (iTBS vs. cTBS). In addition, the effects of each TBS on SEPs and HFOs were evaluated using two-way or one-way ANOVA. Each TBS-induced effect on the MEP and SICI was studied using a one-way, repeated-measures ANOVA with Time (before TBS vs. 0–5, 10–15, 20–25, and 30–35 min after TBS) as the within-subject factor. When the effect was significant, a post hoc Dunnett's paired *t* test was performed on the data. Statistics for the data in Fig. 4 were performed on normalized data, whereas the statistical analysis of each time course was performed separately on absolute values. A value of *p* < 0.05 was considered to be statistically significant. Data were expressed as means \pm standard error of the mean.

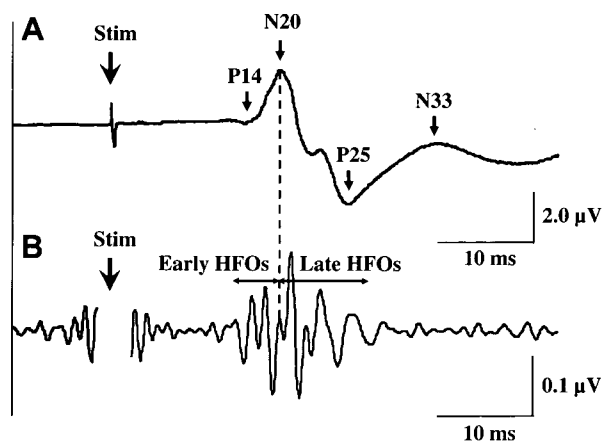


Fig. 1. (A) Typical wide-band (0.3–3000 Hz) and (B) narrow-band (400–800 Hz) somatosensory-evoked potentials (SEPs) from C3'–Fz following right median nerve stimulation in a subject. (B) The narrow-band trace shows a short burst of high-frequency oscillations (HFOs) around N20.

3. Results

3.1. Experiment 1: the effects of TBS on SEPs and HFOs

In separate analyses for R1 and R2, a three-way ANOVA of mixed design revealed no significant three-way interactions on SEPs and HFOs. HFOs were revealed to have a significant two-way interaction for Time \times Intervention (early HFOs: $F_{(2,72)} = 5.568$, $p = 0.008$; late HFOs: $F_{(2,72)} = 3.261$, $p = 0.044$; total HFOs: $F_{(2,72)} = 4.444$, $p = 0.019$), as shown in Table 1. Separate two-way ANOVAs on HFOs following iTBS and cTBS revealed no significant Time \times Site interactions. Late HFOs were revealed to have a significant two-way interaction for Intervention \times Site ($F_{(2,72)} = 16.763$, $p < 0.001$), and significant

main effects for Intervention ($F_{(2,72)} = 23.039$, $p < 0.001$), Site ($F_{(2,72)} = 14.469$, $p = 0.001$) (Table 1). One-way ANOVA revealed a significant change in late HFOs from C3' following iTBS ($F_{(2,18)} = 3.66$, $p = 0.046$), but no significant changes in early and total HFOs following iTBS (early HFOs: $F_{(2,18)} = 3.554$, $p = 0.079$; total HFOs: $F_{(2,18)} = 4.132$, $p = 0.059$) and HFOs following cTBS (early HFOs: $F_{(2,18)} = 2.235$, $p = 0.169$; late HFOs: $F_{(2,18)} = 1.872$, $p = 0.215$; total HFOs: $F_{(2,18)} = 1.742$, $p = 0.236$). Post hoc analysis revealed late HFOs in R1 increased significantly ($p = 0.030$) following iTBS, whereas late HFOs in R2 did not ($p = 0.615$), as shown in Figs. 2 and 3A. No significant changes were shown in HFOs from C4' following TBS. Although there were no significant main and interaction effects on SEPs recorded from both

Table 1
Results of the three-way, repeated-measures ANOVA for the effects of TBS on SEPs and HFOs

| | df | Early HFOs | | Late HFOs | | Total HFOs | | P14–N20 | | N20–P25 | | P25–N33 | |
|--|----|------------|--------|-----------|---------|------------|--------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | | F | p | F | p | F | p | F | p | F | p | F | p |
| <i>Analyses for R1 and R2</i> | | | | | | | | | | | | | |
| Time | 72 | 0.562 | 0.575 | 0.457 | 0.637 | 0.890 | 0.420 | 0.822 | 0.448 | 0.712 | 0.498 | 2.914 | 0.068 |
| Intervention | 1 | 5.571 | 0.024* | 23.039 | <0.001* | 3.304 | 0.077 | 0.709 | 0.405 | 2.882 | 0.098 | 0.148 | 0.703 |
| Recording site | 1 | 0.059 | 0.810 | 14.469 | 0.001* | 0.000 | 0.986 | 0.074 | 0.788 | 0.008 | 0.929 | 0.039 | 0.845 |
| Time \times Intervention | 72 | 5.568 | 0.008* | 3.261 | 0.044* | 4.444 | 0.019* | 1.754 | 0.188 | 0.050 | 0.951 | 0.052 | 0.949 |
| Intervention \times Site | 1 | 0.075 | 0.786 | 16.763 | <0.001* | 0.004 | 0.949 | 0.157 | 0.695 | 0.087 | 0.769 | 0.253 | 0.618 |
| Site \times Time | 72 | 1.316 | 0.281 | 0.042 | 0.959 | 0.820 | 0.449 | 0.186 | 0.669 | 1.558 | 0.225 | 3.082 | 0.059 |
| Time \times Intervention \times Site | 72 | 0.786 | 0.464 | 1.617 | 0.213 | 1.070 | 0.354 | 0.766 | 0.473 | 0.232 | 0.794 | 0.041 | 0.960 |
| <i>Analyses for R1 + R2</i> | | | | | | | | | | | | | |
| Time | 36 | 0.019 | 0.891 | 0.024 | 0.877 | 0.008 | 0.931 | 3.582 | 0.066 | 2.007 | 0.165 | 1.014 | 0.321 |
| Intervention | 1 | 6.577 | 0.015* | 1.006 | 0.322 | 3.914 | 0.056 | 0.547 | 0.464 | 2.836 | 0.101 | 0.162 | 0.690 |
| Recording site | 1 | 0.201 | 0.656 | 0.029 | 0.866 | 0.000 | 0.991 | 0.099 | 0.755 | 0.006 | 0.940 | 0.025 | 0.874 |
| Time \times Intervention | 36 | 2.828 | 0.101 | 4.556 | 0.040* | 4.074 | 0.049* | 1.357 | 0.252 | 0.122 | 0.729 | 0.038 | 0.847 |
| Intervention \times Site | 1 | 0.040 | 0.844 | 0.022 | 0.848 | 0.002 | 0.966 | 0.167 | 0.685 | 0.077 | 0.783 | 0.257 | 0.615 |
| Site \times Time | 36 | 1.845 | 0.183 | 0.248 | 0.621 | 0.814 | 0.373 | 2.866 | 0.099 | 0.878 | 0.355 | 1.110 | 0.299 |
| Time \times Intervention \times Site | 36 | 0.481 | 0.492 | 2.227 | 0.144 | 1.048 | 0.313 | 0.612 | 0.439 | 0.082 | 0.777 | 0.014 | 0.906 |

df, degrees of freedom; F, F values; p, p values.

* $p < 0.05$.

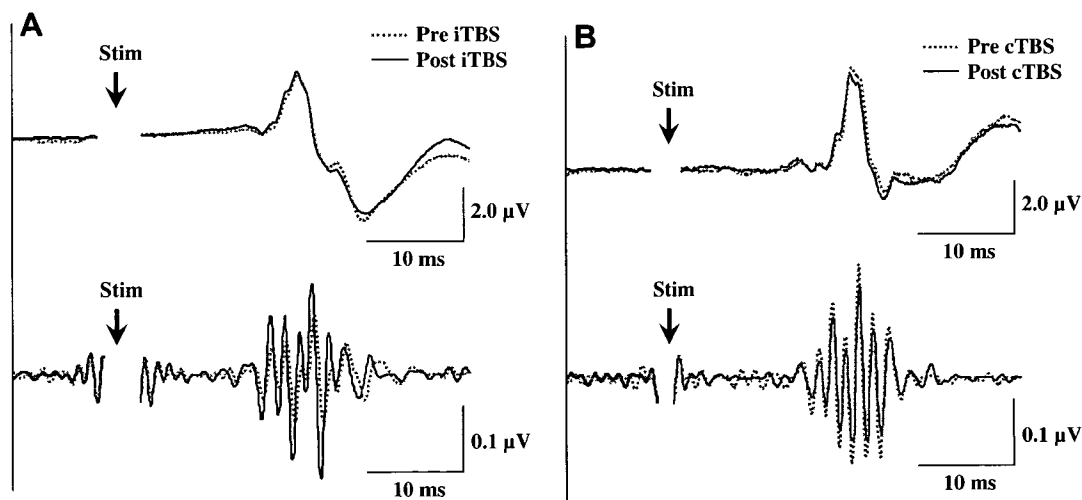


Fig. 2. Representative SEPs and HFOs from C3'–Fz were obtained in a subject before and after theta burst stimulation (TBS) over the motor cortex. SEP (upper trace) and HFO (lower trace) waveforms before and after TBS were superimposed. (A and B) HFO amplitudes were enlarged/reduced significantly after iTBS/cTBS, respectively, whereas there were no statistically significant changes in SEPs.

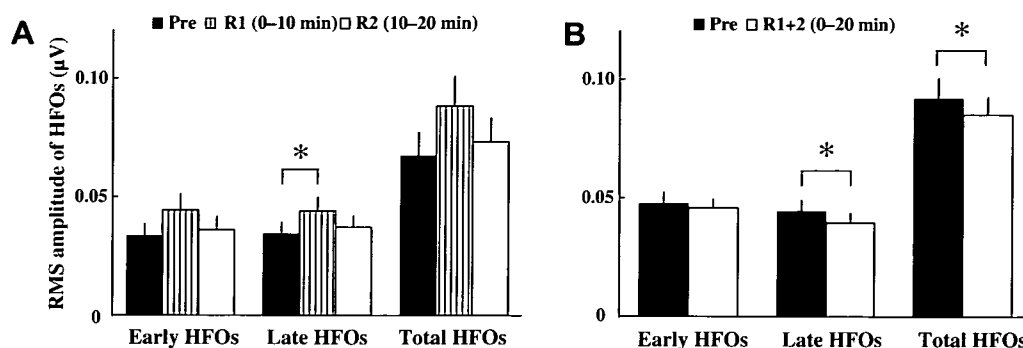


Fig. 3. Effect of TBS on root-mean-square (RMS) amplitudes of HFOs. (A) Late HFO amplitudes recorded from C3'–Fz in the first stimuli for 10 min increased significantly following iTBS, whereas (B) late and total HFO amplitudes decreased notably following cTBS. * $p < 0.05$ by a one-way analysis of variance (ANOVA) with Time (before TBS vs. after TBS). Error bar = standard error of the mean.

sides (Table 1), the P25–N33 amplitude from C3' revealed a tendency to increase ($F_{(2,18)} = 3.311, p = 0.090$).

In analyses for R1 + R2, a three-way ANOVA of mixed design revealed no significant three-way interactions on SEPs and HFOs. Late and total HFOs were revealed to have a significant two-way interaction for Time × Intervention (late HFOs: $F_{(1,36)} = 4.556, p = 0.040$; total HFOs: $F_{(1,36)} = 4.074, p = 0.049$), whereas there were no significant interactions for Time × Intervention on early HFOs, as shown in Table 1. Separate two-way ANOVAs on late and total HFOs following iTBS and cTBS revealed no sig-

nificant Time × Site interactions. One-way ANOVA revealed that late and total HFOs from C3' decreased significantly following cTBS (late HFOs: $F_{(1,9)} = 17.531, p = 0.002$; total HFOs: $F_{(1,9)} = 13.684, p = 0.005$), but there were no significant effects following iTBS, as shown in Figs. 2 and 3B. No significant changes were shown in HFOs from C4' following TBS. SEPs recorded from both C3' and C4' also showed no significant main and interaction effects, as shown in Table 1.

3.2. Experiment 2: the effects of TBS on motor cortical excitability

One-way, repeated-measures ANOVA revealed significant changes in the MEP and SICI following iTBS (MEP: $F_{(4,20)} = 4.015, p = 0.015$; SICI: $F_{(4,20)} = 4.318, p = 0.038$) as a factor of Time. Post hoc analysis revealed that MEPs increased significantly for 0–15 min after iTBS (0–5 min: $p = 0.008$; 10–15 min: $p = 0.042$; 20–25 min: $p = 0.937$; 30–35 min: $p = 0.933$) (Fig. 4). There was a significant increment in SICI only for 0–5 min after iTBS (0–5 min: $p = 0.015$; 10–15 min: $p = 0.278$; 20–25 min: $p = 0.578$; 30–35 min: $p = 1.000$) (Fig. 5A).

The MEP and SICI changed notably following cTBS (MEP: $F_{(4,20)} = 2.956, p = 0.045$; SICI: $F_{(4,20)} = 5.814, p = 0.001$) as a factor of Time. Post hoc analysis revealed that MEPs decreased significantly for 10–35 min after

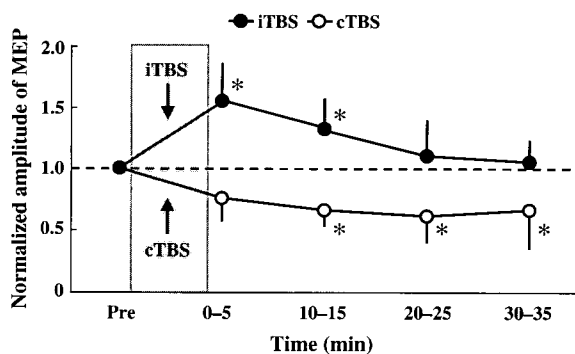


Fig. 4. Effects of TBS on motor-evoked potentials (MEPs). The size ratios (post-TBS/pre-TBS) of the MEPs are shown. The MEPs were enlarged/reduced significantly following iTBS/cTBS, respectively.

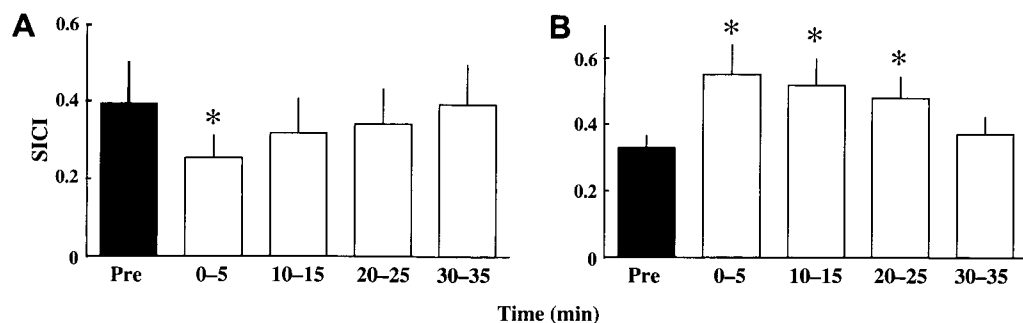


Fig. 5. Effect of TBS on short-interval intracortical inhibition (SICI). (A and B) SICI was increased/decreased significantly after iTBS/cTBS, respectively. The decrement in SICI after cTBS lasted longer than the increment in SICI after iTBS.

cTBS (0–5 min: $p = 0.256$; 10–15 min: $p = 0.038$; 20–25 min: $p = 0.029$; 30–35 min: $p = 0.049$) (Fig. 4). SICI was reduced notably for 0–25 min after cTBS (0–5 min: $p = 0.004$; 10–15 min: $p = 0.012$; 20–25 min: $p = 0.042$; 30–35 min: $p = 0.607$) (Fig. 5B). The decrement in SICI following cTBS lasted longer than the increment in SICI following iTBS.

4. Discussion

In the present study, we investigated how the two types of TBS over the motor cortex influenced the sensorimotor cortices. Late HFO amplitudes increased significantly after iTBS. In contrast, late and total HFO amplitudes decreased notably after cTBS. Wide-band SEP amplitudes did not change after either intervention. On motor cortical excitability, MEPs and SICI were increased/decreased significantly after iTBS/cTBS, respectively. The decrement in SICI after cTBS lasted longer than the increment in SICI after iTBS. Since we obtained the same results about MEPs and SICI as those reported previously (Huang et al., 2005), we concluded that TBS caused plastic changes in the motor cortex appropriately in the present study.

Previous studies revealed that rTMS over the motor cortex changed SEPs. Low-frequency rTMS over the motor cortex reduced the cortical SEP (Enomoto et al., 2001). rTMS over the motor cortex paired with a preceding repetitive motor point stimulation increased the cortical SEP (Tsuji and Rothwell, 2002). In the present study, wide-band SEPs did not change notably, but significant effects were shown in HFOs after TBS over the motor cortex. Since the TBS protocol was based on Huang's report in the present session, the stimulus intensity of TBS was fixed at 80% AMT (mean $41.4 \pm 7.3\%$) (Huang et al., 2005). This stimulus intensity was weaker than that in the previous studies of rTMS over the motor cortex (in Enomoto's study, 110% AMT; in Tsuji and Rothwell's study, 105% RMT). SEPs were unaffected after 90% RMT, 0.9 Hz rTMS over the sensorimotor cortices (Satow et al., 2003). In the case of 80% RMT, 0.5 Hz rTMS over the somatosensory cortex, the increment of HFOs was obtained, but there was no change in SEPs (Ogawa et al., 2004). Because the rTMS paradigm and stimulus site in the present study were different from those in the previous studies, we could not compare our results with the previous results directly. But we supposed that the stimulus intensity was one of the most important factors influencing the cortical excitability. In the present study, the results of SEPs and HFOs following TBS were different. These results implied that the generator mechanisms for HFOs and SEPs are different. Assuming that TBS over the motor cortex does not affect directly the somatosensory cortex, we suggest that some indirect mechanism may exist in the modulation of the HFOs.

Ishikawa and colleagues reported that cTBS over the motor cortex increased the SEPs, whereas cTBS over the somatosensory cortex produced reversed events (Ishikawa et al., 2007). Although the stimulus paradigm and intensity

were very similar between the Ishikawa's study and the present study, our SEP results of the P25–N33 amplitude from C3' did not increase significantly. One major reason for this is the difference in the position of the reference electrode. In the present study, the reference was set to Fz according to IFCN recommendations (Nuwer et al., 1994). Our experiment, as well as previous studies, demonstrated that using the Fz reference for recording HFOs is appropriate (Mochizuki et al., 1999; Sakuma et al., 2004). In Ishikawa's study, SEPs were recorded with a reference to the contralateral earlobe, and the same directional changes not only in the parietal but also in the frontal components of SEPs were obtained after cTBS (Ishikawa et al., 2007). We also consider that large intra-individual variability of SEP amplitudes affected statistical analysis. For example, the P25–N33 amplitude from C3' in cTBS study was 0.22–3.19 μV (mean $1.65 \pm 0.99 \mu\text{V}$). However to resolve this discrepancy, further studies using multi-channel SEPs or MEG will be needed.

More than a decade has passed since the first report of HFOs, however, the origin of HFOs is still controversial. There are different hypotheses of HFO generation; thalamocortical afferent fibers (Gobbele et al., 1998; Klostermann et al., 2002), fast inhibitory postsynaptic potentials of pyramidal cells (Jones et al., 2000), GABAergic inhibitory interneurons in area 3b (Hashimoto et al., 1996, 1999; Ozaki et al., 2001), and cholinergic neurons in previous studies. But the precise anatomical location of the generator remains unclear. Since HFOs in Parkinson's disease are larger than those in normal subjects (Mochizuki et al., 1999), dopamine may have some role in the changes in HFOs.

In TMS studies, the phenomenon of SICI is generally thought to reflect the activity of GABAergic inhibitory interneurons within the motor cortex (Chen et al., 1998; Kujirai et al., 1993; Ziemann et al., 1998b; Ziemann, 2004). Previous pharmacological studies reveal that the change of SICI does not implicate only GABAergic function. The NMDA antagonist enhances SICI (Ziemann et al., 1998a,c). The dopamine agonists also induce the facilitation of SICI (Ziemann et al., 1996, 1997; Ziemann, 2004), whereas dopamine antagonist and norepinephrine agonist decrease SICI (Ilic et al., 2003; Ziemann, 2004). In Parkinson's disease, the lack of dopamine by degeneration of dopaminergic neurons decreases the function of SICI, but improves after L-dopa administration (Ridding et al., 1995).

In the present study, late HFOs increased significantly after iTBS, whereas late and total HFOs decreased after cTBS. These results were parallel to the changes in SICI after TBS. In addition, the decrement in HFOs following cTBS lasted longer than the increment in HFOs following iTBS, and the time courses of HFO changes following TBS were very similar to those of SICI changes. There are several lines of evidence in the present study which suggest that changes in SICI and HFOs following TBS may share a related mechanism. This includes: (1) The observa-

tion that HFOs in the somatosensory cortex are increased/decreased in response to iTBS/cTBS (similar to SICI in the motor cortex). (2) The time courses of HFO changes following TBS were also similar to those of SICI changes. These parallel changes in SICI and HFOs following TBS led us to speculate that a common neural mechanism is involved in the generation of SICI and HFOs, i.e. the activity of GABAergic inhibitory interneurons and their networks with pyramidal cells. Thus, although indirect, the present results provide an additional piece of evidence supporting the GABAergic inhibitory interneuron hypothesis as the HFO generator mechanism.

In the Huang's study, not only MEP but also SICI increased/decreased after iTBS/cTBS. Intracortical facilitation, where more than one circuit might contribute to, also decreased after cTBS (Hanajima et al., 1998). The authors suggested that iTBS/cTBS increased/decreased the effectiveness of synaptic connections in these parameters (Huang et al., 2005). Our results showed that both MEP and SICI changed in same directions after TBS, in line with Huang's study. Therefore, we speculate that the effectiveness of synaptic connections among interneurons or between pyramidal cells and interneurons may be changed by TBS. Since it has been speculated that both HFOs and SICI may reflect the functions of GABAergic inhibitory interneurons, we consider that the changes in the effectiveness of synaptic connections among GABAergic inhibitory interneurons can be detected following TBS by recording SICI and HFOs.

Low-frequency rTMS over the motor cortex suppressed the excitability not only in the motor (Chen et al., 1997) but also in the somatosensory cortices (Enomoto et al., 2001). It is well known that the robust cortico-cortical connections are present between the motor and somatosensory cortices. Enomoto and colleagues speculated that low-frequency rTMS over the motor cortex produced an inhibitory effect in the somatosensory cortex via the cortico-cortical connections between the motor and somatosensory cortices (Enomoto et al., 2001). SEPs and HFOs represent parallel and partly independent steps in sensory processing. SEPs also represent stable somatosensory input while HFOs are easily influenced by several factors. When the sleep stage became deeper, HFOs got smaller, but SEP amplitudes did not change (Yamada et al., 1988). Low-frequency, weak-intensity rTMS (0.5 Hz, 80% RMT, 50 pulses) over the somatosensory cortex enlarged HFOs, whereas there was no significant change in slow SEPs (Ogawa et al., 2004). Furthermore, the authors described that the contribution of the motor cortex to rTMS could not be excluded completely (Ogawa et al., 2004). In the present study, iTBS/cTBS increased/decreased HFOs in the somatosensory cortex similar to SICI in the motor cortex, and the time courses of HFO changes following TBS were also similar to those of SICI changes. Since HFOs are prone to be influenced by rTMS as compared with SEPs (based on a previous study), we speculate that the changes in the effectiveness of synaptic connections among GABAergic

inhibitory interneurons and between the interneurons and pyramidal cells by TBS over the motor cortex might appear not only in the motor cortex but also in the somatosensory cortex via the cortico-cortical connections. As a result, HFOs changed in parallel with SICI.

In conclusion, TBS over the motor cortex changed the cortical excitability in the somatosensory as well as motor cortices by changing the effectiveness of synaptic connections. Late HFOs increased significantly after iTBS, whereas late and total HFOs decreased notably after cTBS. Because these bidirectional TBS effects on HFOs were parallel to those on SICI, TBS might change the effectiveness of synaptic connections among GABAergic inhibitory interneurons and between the interneurons and pyramidal cells in the sensorimotor cortices. Accordingly, this study provided an additional piece of evidence that HFOs reflect the function of GABAergic inhibitory interneurons.

Acknowledgement

We thank Masayoshi Kusumi, MD, PhD, for his useful comments on statistical analysis. This study was supported by a Grant-in-Aid from the Research Committee on rTMS treatment of movement disorders, the Ministry of Health and Welfare of Japan (17231401).

References

- Chen R, Classen J, Gerloff C, Celnik P, Wassermann EM, Hallett M, et al. Depression of motor cortex excitability by low-frequency transcranial magnetic stimulation. *Neurology* 1997;48:1398–403.
- Chen R, Corwell B, Yaseen Z, Hallett M, Cohen LG. Mechanisms of cortical reorganization in lower-limb amputees. *J Neurosci* 1998;18:3443–50.
- Curio G, Mackert BM, Burghoff M, Koetitz R, Abraham-Fuchs K, Harer W. Localization of evoked neuromagnetic 600 Hz activity in the cerebral somatosensory system. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1994;91:483–7.
- Curio G, Mackert BM, Burghoff M, Neumann J, Nolte G, Scherg M, et al. Somatotopic source arrangement of 600 Hz oscillatory magnetic fields at the human primary somatosensory hand cortex. *Neurosci Lett* 1997;234:131–4.
- Di Lazzaro V, Oliviero A, Berardelli A, Mazzone P, Insola A, Pilato F, et al. Direct demonstration of the effects of repetitive transcranial magnetic stimulation on the excitability of the human motor cortex. *Exp Brain Res* 2002;144:549–53.
- Eisen A, Roberts K, Low M, Hoirsch M, Lawrence P. Questions regarding the sequential neural generator theory of the somatosensory evoked potential raised by digital filtering. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1984;59:388–95.
- Enomoto H, Ugawa Y, Hanajima R, Yuasa K, Mochizuki H, Terao Y, et al. Decreased sensory cortical excitability after 1 Hz rTMS over the ipsilateral primary motor cortex. *Clin Neurophysiol* 2001;112:2154–8.
- Franca M, Koch G, Mochizuki H, Huang YZ, Rothwell JC. Effects of theta burst stimulation protocols on phosphene threshold. *Clin Neurophysiol* 2006;117:1808–13.
- Gerschlagler W, Siebner HR, Rothwell JC. Decreased corticospinal excitability after subthreshold 1 Hz rTMS over lateral premotor cortex. *Neurology* 2001;57:449–55.
- Gobbele R, Buchner H, Curio G. High-frequency (600 Hz) SEP activities originating in the subcortical and cortical human somatosensory system. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1998;108:182–9.

- Hanajima R, Ugawa Y, Terao Y, Sakai K, Furubayashi T, Machii K, et al. Paired-pulse magnetic stimulation of the human motor cortex: differences among I waves. *J Physiol* 1998;509:607–18.
- Hashimoto I, Mashiko T, Imada T. Somatic evoked high-frequency magnetic oscillations reflect activity of inhibitory interneurons in the human somatosensory cortex. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1996;100:189–203.
- Hashimoto I, Kimura T, Fukushima T, Iguchi Y, Saito Y, Terasaki O, et al. Reciprocal modulation of somatosensory evoked N20m primary response and high-frequency oscillations by interference stimulation. *Clin Neurophysiol* 1999;110:1445–51.
- Huang YZ, Edwards MJ, Rounis E, Bhatia KP, Rothwell JC. Theta burst stimulation of the human motor cortex. *Neuron* 2005;45:201–6.
- Huang YZ, Rothwell JC, Edwards MJ, Chen RS. Effect of physiological activity on an NMDA-dependent form of cortical plasticity in human. *Cereb Cortex*, in press.
- Ilic TV, Korchounov A, Ziemann U. Methylphenidate facilitates and disinhibits the motor cortex in intact humans. *Neuroreport* 2003;14:773–6.
- Ishikawa S, Matsunaga K, Nakanishi R, Kawahira K, Murayama N, Tsuji S, et al. Effect of theta burst stimulation over the human sensorimotor cortex on motor and somatosensory evoked potentials. *Clin Neurophysiol* 2007;118:1033–43.
- Jones MS, MacDonald KD, Choi B, Dudek FE, Barth DS. Intracellular correlates of fast (>200 Hz) electrical oscillations in rat somatosensory cortex. *J Neurophysiol* 2000;84:1505–18.
- Klostermann F, Gobbele R, Buchner H, Curio G. Intrathalamic non-propagating generators of high-frequency (1000 Hz) somatosensory evoked potential (SEP) bursts recorded subcortically in man. *Clin Neurophysiol* 2002;113:1001–5.
- Kujirai T, Caramia MD, Rothwell JC, Day BL, Thompson PD, Ferbert A, et al. Corticocortical inhibition in human motor cortex. *J Physiol* 1993;471:501–19.
- Lefaucheur JP, Drouot X, Menard-Lefaucheur I, Zerah F, Bendib B, Cesaro P, et al. Neurogenic pain relief by repetitive transcranial magnetic cortical stimulation depends on the origin and the site of pain. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2004;75:612–6.
- Matsunaga K, Maruyama A, Fujiwara T, Nakanishi R, Tsuji S, Rothwell JC. Increased corticospinal excitability after 5 Hz rTMS over the human supplementary motor area. *J Physiol* 2005;562:295–306.
- Mochizuki H, Ugawa Y, Machii K, Terao Y, Hanajima R, Furubayashi T, et al. Somatosensory evoked high-frequency oscillation in Parkinson's disease and myoclonus epilepsy. *Clin Neurophysiol* 1999;110:185–91.
- Mochizuki H, Machii K, Terao Y, Furubayashi T, Hanajima R, Enomoto H, et al. Recovery function of and effects of hyperventilation on somatosensory evoked high-frequency oscillation in Parkinson's disease and myoclonus epilepsy. *Neurosci Res* 2003;46:485–92.
- Nuwer MR, Aminoff M, Desmedt J, Eisen AA, Goodin D, Matsuoka S, et al. IFCN recommended standards for short latency somatosensory evoked potentials. Report of an IFCN committee. International Federation of Clinical Neurophysiology. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1994;91:6–11.
- Ogawa A, Ukai S, Shinosaki K, Yamamoto M, Kawaguchi S, Ishii R, et al. Slow repetitive transcranial magnetic stimulation increases somatosensory high-frequency oscillations in humans. *Neurosci Lett* 2004;358:193–6.
- Ozaki I, Yaegashi Y, Kimura T, Baba M, Matsunaga M, Hashimoto I. Dipole orientation differs between high frequency oscillations and N20m current sources in human somatosensory evoked magnetic fields to median nerve stimulation. *Neurosci Lett* 2001;310:41–4.
- Pascual-Leone A, Valls-Sole J, Brasil-Neto JP, Cohen LG, Hallett M. Akinesia in Parkinson's disease. I. Shortening of simple reaction time with focal, single-pulse transcranial magnetic stimulation. *Neurology* 1994a;44:884–91.
- Pascual-Leone A, Valls-Sole J, Brasil-Neto JP, Cammarota A, Grafman J, Hallett M. Akinesia in Parkinson's disease. II. Effects of subthreshold repetitive transcranial motor cortex stimulation. *Neurology* 1994b;44:892–8.
- Pascual-Leone A, Rubio B, Pallardo F, Catala MD. Rapid-rate transcranial magnetic stimulation of left dorsolateral prefrontal cortex in drug-resistant depression. *Lancet* 1996;348:233–7.
- Ridding MC, Inzelberg R, Rothwell JC. Changes in excitability of motor cortical circuitry in patients with Parkinson's disease. *Ann Neurol* 1995;37:181–8.
- Rossini PM, Barker AT, Berardelli A, Caramia MD, Caruso G, Cracco RQ, et al. Non-invasive electrical and magnetic stimulation of the brain, spinal cord and roots: basic principles and procedures for routine clinical application. Report of an IFCN committee. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1994;91:79–92.
- Sakuma K, Hashimoto I. High-frequency magnetic oscillations evoked by posterior tibial nerve stimulation. *Neuroreport* 1999;10:227–30.
- Sakuma K, Sekihara K, Hashimoto I. Neural source estimation from a time-frequency component of somatic evoked high-frequency magnetic oscillations to posterior tibial nerve stimulation. *Clin Neurophysiol* 1999;110:1585–8.
- Sakuma K, Takeshima T, Ishizaki K, Nakashima K. Somatosensory evoked high-frequency oscillations in migraine patients. *Clin Neurophysiol* 2004;115:1857–62.
- Satow T, Mima T, Yamamoto J, Oga T, Begum T, Aso T, et al. Short-lasting impairment of tactile perception by 0.9 Hz-rTMS of the sensorimotor cortex. *Neurology* 2003;60:1045–7.
- Shimazu H, Kaji R, Tsujimoto T, Kohara N, Ikeda A, Kimura J, et al. High-frequency SEP components generated in the somatosensory cortex of the monkey. *Neuroreport* 2000;11:2821–6.
- Tsuji T, Rothwell JC. Long lasting effects of rTMS and associated peripheral sensory input on MEPs, SEPs and transcortical reflex excitability in humans. *J Physiol* 2002;540:367–76.
- Yamada T, Kameyama S, Fuchigami Y, Nakazumi Y, Dickins QS, Kimura J. Changes of short latency somatosensory evoked potential in sleep. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1988;70:126–36.
- Ziemann U, Bruns D, Paulus W. Enhancement of human motor cortex inhibition by the dopamine receptor agonist pergolide: evidence from transcranial magnetic stimulation. *Neurosci Lett* 1996;208:187–90.
- Ziemann U, Tergau F, Bruns D, Baudewig J, Paulus W. Changes in human motor cortex excitability induced by dopaminergic and anti-dopaminergic drugs. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1997;105:430–7.
- Ziemann U, Chen R, Cohen LG, Hallett M. Dextromethorphan decreases the excitability of the human motor cortex. *Neurology* 1998a;51:1320–4.
- Ziemann U, Corwell B, Cohen LG. Modulation of plasticity in human motor cortex after forearm ischemic nerve block. *J Neurosci* 1998b;18:1115–23.
- Ziemann U, Tergau F, Wischer S, Hildebrandt J, Paulus W. Pharmacological control of facilitatory I-wave interaction in the human motor cortex. A paired transcranial magnetic stimulation study. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 1998c;109:321–30.
- Ziemann U. TMS and drugs. *Clin Neurophysiol* 2004;115:1717–29.

Changes in somatosensory-evoked potentials and high-frequency oscillations after paired-associative stimulation

Takenobu Murakami · Kenji Sakuma ·
Takashi Nomura · Yusuke Uemura · Isao Hashimoto ·
Kenji Nakashima

Received: 6 March 2007 / Accepted: 10 August 2007 / Published online: 28 August 2007
© Springer-Verlag 2007

Abstract Paired-associative stimulation (PAS), combining electrical median nerve stimulation with transcranial magnetic stimulation (TMS) with a variable delay, causes long-term potentiation or depression (LTP/LTD)-like cortical plasticity. In the present study, we examined how PAS over the motor cortex affected a distant site, the somatosensory cortex. Furthermore, the influences of PAS on high-frequency oscillations (HFOs) were investigated to clarify the origin of HFOs. Interstimulus intervals between median nerve stimulation and TMS were 25 ms (PAS₂₅) and 10 ms (PAS₁₀). PAS was performed over the motor and somatosensory cortices. SEPs following median nerve stimulation were recorded before and after PAS. HFOs were isolated by 400–800 Hz band-pass filtering. PAS₂₅ over the motor cortex increased the N20–P25 and P25–N33 amplitudes and the HFOs significantly. The enhancement of the P25–N33 amplitude and the late HFOs lasted more than 60 min. After PAS₁₀ over the motor cortex, the N20–P25 and P25–N33 amplitudes decreased for 40 min, and the HFOs decreased for 60 min. Frontal SEPs were not affected after PAS over the motor cortex. PAS_{25/10} over the somatosensory cortex did not affect SEPs and HFOs. PAS_{25/10} over the motor cortex caused the LTP/LTD-like phenomena in a distant site, the somatosensory cortex. The PAS paradigms over the motor cortex can modify both the neural generators of SEPs

and HFOs. HFOs may reflect the activation of GABAergic inhibitory interneurons regulating pyramidal neurons in the somatosensory cortex.

Keywords Somatosensory-evoked potentials (SEPs) · High-frequency oscillations (HFOs) · Paired-associative stimulation (PAS) · Somatosensory cortex · Plasticity

Introduction

Plasticity in the human motor cortex can be elicited using an intervention shaped after a model of associative long-term potentiation (LTP) in experimental animals (Stefan et al. 2000). Median nerve stimulation is paired with transcranial magnetic stimulation (TMS) over the contralateral motor cortex representing the abductor pollicis brevis muscle (APB). This protocol, termed paired-associative stimulation (PAS), rapidly induces a long-lasting, reversible, and topographically specific increase in motor-evoked potentials (MEPs), when applied repeatedly. Additional studies have found that the LTP or long-term depression (LTD)-like phenomena of the MEPs depended on the interstimulus intervals (ISIs) between the two modalities, and this LTP was blocked by an *N*-methyl-D-aspartate (NMDA) receptor antagonist (Stefan et al. 2002; Wolters et al. 2003; Ziemann et al. 1998). PAS over the somatosensory cortex could modulate the cortical components of the somatosensory-evoked potential (SEP), and these effects also depended on the timing of the stimulation (Wolters et al. 2005).

Low-amplitude, high-frequency oscillations (HFOs) of 500–800 Hz superimposed on the ascending slope of the N20 primary response following stimulation of the median nerve have been reported (Curio et al. 1994; Hashimoto et al. 1996). Several candidates for the generator of HFOs

T. Murakami (✉) · K. Sakuma · T. Nomura ·
Y. Uemura · K. Nakashima
Department of Neurology, Institute of Neurological Sciences,
Faculty of Medicine, Tottori University,
36-1 Nishicho, Yonago 683-8504, Japan
e-mail: takebou@grape.med.tottori-u.ac.jp

I. Hashimoto
Kanazawa Institute of Technology, Tokyo, Japan

have been proposed, including the thalamus (Eisen et al. 1984; Klostermann et al. 2002), the thalamocortical pre-synaptic action potentials (Gobbele et al. 1998), and the somatosensory cortex (Curio et al. 1997; Hashimoto et al. 1999; Sakuma and Hashimoto 1999; Sakuma et al. 1999, 2004; Shimazu et al. 2000), but the precise anatomical location of the generator remains unclear. Hashimoto and colleagues hypothesized that HFOs represented a localized activity of the GABAergic inhibitory interneurons in layer 4 of area 3b, whereas the N20 component was considered to be generated by excitatory postsynaptic potentials (EPSPs) of pyramidal neurons (Hashimoto et al. 1996).

Previous PAS studies reported changes in synaptic efficacy in the stimulated site (PAS over the motor cortex via MEP assessment, PAS over the somatosensory cortex via SEP assessment). In the present study, we investigated the changes in synaptic efficacies in a site distant from the stimulated site (PAS over the motor cortex via SEP, HFO assessment), comparing them to the effect of PAS over the somatosensory cortex. We hypothesized that the LTP/LTD-like phenomena obtained by PAS over the motor cortex occurred not only in the motor cortex but also in the ipsilateral somatosensory cortex, because dense cortico-cortical connections exist between the motor and somatosensory cortices (Enomoto et al. 2001). Furthermore, we investigated how HFOs were influenced by the bidirectional LTP/LTD-like phenomena following PAS to clarify their anatomical and physiological origins.

Materials and methods

Subjects

We studied a total of 54 right-handed healthy volunteers (23 women, 31 men), 20–39 years of age (mean age, 24.4 ± 3.6 years). None had a history of physical or neurological illness. Some subjects took part in more than one experiment. This study was approved by the Human Ethics Committee of Tottori University and was conducted in accordance with the Declaration of Helsinki. All participants gave their informed consent prior to participation.

PAS protocol

PAS consisted of combined electrical median nerve stimulation and TMS over the sensorimotor cortices (Stefan et al. 2000; Wolters et al. 2005). For peripheral nerve stimulation, electrical stimuli 0.2 ms in duration were delivered to the right median nerve at the subjects' wrists. The stimulus intensity was set at three times the sensory threshold. Peripheral nerve stimulation was followed by TMS. TMS was applied using a Magstim 200 stimulator (Magstim Co.,

Whitland, Dyfed, UK) and a figure-of-eight coil with external loop diameters of 80 mm. The coil was held tangentially to the skull, with the handle pointing backward and laterally at a 45° angle to the sagittal plane. In the "PAS over the motor cortex" paradigms, the center of the linear contiguous segment of the coil was placed over the hand area of the left motor cortex. In the "PAS over the somatosensory cortex" paradigms, the coil was placed over an area 2 cm posterior to the hand area of the left motor cortex (Wolters et al. 2005). Intensities were expressed as a percentage of the maximum output of the stimulator. Intensities used for PAS were determined to produce a peak-to-peak MEP amplitude of approximately 1 mV in the resting right APB muscle. One stimulus pair was given every 20 s (0.05 Hz stimulation rate) over 30 min (total of 90 stimulus pairs), at ISIs of 25 ms (PAS₂₅) and 10 ms (PAS₁₀). These ISIs were chosen because they were shown to be effective in producing an increment/decrement in the MEP amplitude (Stefan et al. 2000; Wolters et al. 2003). Throughout the experiment, complete muscle relaxation and the MEPs caused by PAS over the motor cortex from the APB muscle were monitored appropriately by electromyogram.

Experiment 1: effects on SEPs and HFOs after PAS over the motor cortex

Subjects and SEP/HFO recordings

Twenty-six subjects participated in the SEP experiments. Eleven subjects participated in the "PAS₂₅ over the motor cortex" paradigm, and 11 subjects participated in the "PAS₁₀ over the motor cortex" paradigm, with four subjects participating in both experiments on different days. These experiments were conducted at least one month apart.

Subjects lay supine on the bed and were instructed to stay awake with their eyes closed and to pay no attention to the stimuli to avoid sleepiness (Ogawa et al. 2004). Alertness was monitored by electroencephalography (EEG) recording. When subjects were drowsy or sleepy, recordings were stopped, and they were re-started when subjects were completely awake after a nap (Mochizuki et al. 2003). Electrical stimuli of 0.2 ms duration were delivered alternately to the bilateral median nerves at the wrists (cathode proximal). The stimulus intensity was adjusted to three times the sensory threshold so as to induce a small muscular twitch in the thenar muscles. The stimuli were delivered at irregular intervals, with ISIs between 211 and 262 ms. Recording electrodes were placed on C3' (2 cm posterior to C3), C4' (2 cm posterior to C4), Fz, F3, and A2 of the International 10–20 System. Electrode impedance was maintained below 5 kΩ. EEGs were recorded from C3'–Fz, C4'–Fz, and F3–A2 using a 0.3 Hz low-frequency filter and a 3,000 Hz high-frequency filter, then digitized with an ana-

logue-to-digital converter (micro1401, CED, Cambridge, UK) at a sampling rate of 20 kHz and stored on a disk for further analysis. We used a C3'–Fz and C4'–Fz montage for recording HFOs, because it is known from previous studies to be an appropriate method (Mochizuki et al. 1999; Sakuma et al. 2004). SEPs with an epoch of 50 ms duration (from 5 ms pre-stimulus to 45 ms post-stimulus) were recorded before and immediately after PAS. It took about 20 min to record each session of SEPs. Responses to 5,000 stimuli were averaged offline using SPIKE2 software (CED, Cambridge, UK). For separation of HFOs from the underlying N20, the digitized wide-band signal was band-pass filtered (400–800 Hz) digitally and averaged. In wide-band recordings, the SEP peak-to-peak amplitudes were measured and analyzed over C3'–Fz and C4'–Fz for the P14-, N20-, P25- and N33-components (Fig. 1a) and over F3–A2 for the P22- and N30-components. The latency of the N20-component from C3'–Fz was also recorded and analyzed. The size of the HFOs was calculated from their root-mean-square (RMS) amplitude from their onset to their endpoint. Onset/endpoint criteria for HFOs were when they exceeded the averaged background noise level for the subject's control session by three standard deviations. All of these parameters were separated into two parts: (1) early HFOs (onset to N20 peak) and (2) late HFOs (N20 peak to endpoint), as shown in Fig. 1b.

The individual SEP and HFO values for each subject were evaluated using a three-way analysis of variance (ANOVA) of mixed design with the within-subject factors of Time (before PAS vs. just after PAS) and Recording Site (C3' vs. C4') and the between-subject factor of Intervention (PAS₂₅ vs. PAS₁₀). In addition, the effects of each PAS on

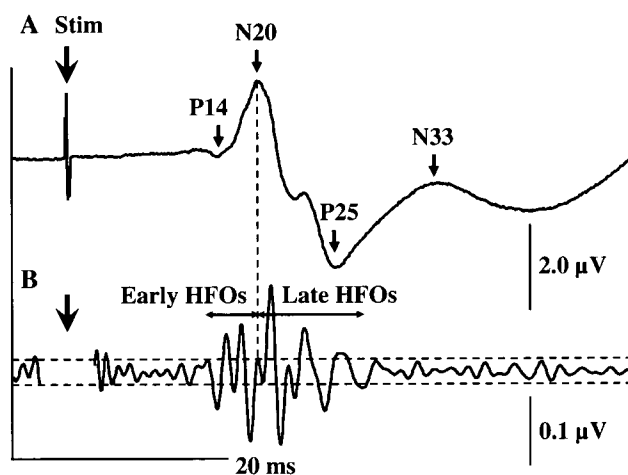


Fig. 1 **a** Typical wide-band (0.3–3,000 Hz) and **b** narrow-band (400–800 Hz) somatosensory-evoked potentials (SEPs) from C3'–Fz following right median nerve stimulation in a subject. **b** The narrow-band trace shows a short burst of high-frequency oscillations (HFOs) around N20

SEPs and HFOs were evaluated using two-way or one-way, repeated-measures ANOVAs as a within-subject factor.

Experiment 2: time courses of changes in SEPs and HFOs after PAS over the motor cortex

Subjects and time courses of SEP/HFO recordings

In 15 of the 26 subjects who participated in Experiment 1, SEPs following PAS were monitored over time (8 subjects with PAS₂₅, 7 subjects with PAS₁₀). To study the time courses of changes in SEPs and HFOs after PAS, we recorded them for about 1 h, and the responses to 5,000 stimuli from C3'–Fz, C4'–Fz, and F3–A2 were averaged every 20 min after each PAS session (just after, 20 min after, and 40 min after).

The time course of each PAS-induced effect on the SEPs and HFOs was studied using a one-way, repeated-measures ANOVA with Time (before PAS vs. just after PAS, 20 and 40 min after PAS) as a within-subject factor.

Experiment 3: comparison of the effects of PAS over the motor cortex with those of PAS over the somatosensory cortex

Subjects and stimulation sites

In 14 subjects, PAS over the somatosensory cortex was performed (7 subjects with PAS₂₅, 7 subjects with PAS₁₀). A magnetic coil was positioned over an area 2 cm posterior to the motor hot spot (Wolters et al. 2005). The effects of PAS over the somatosensory cortex on SEPs and HFOs were compared with those after PAS over the motor cortex (Experiment 1).

To compare the differences between PAS over the motor cortex and PAS over the somatosensory cortex, we performed a two-way ANOVA of mixed design with the within-subject factor of Time (before PAS vs. after PAS) and the between-subject factor of Stimulation Site (motor cortex vs. somatosensory cortex).

Experiment 4: effect of PAS over the motor cortex on motor cortical excitability

Subjects and time courses of MEP recordings

Motor cortical excitability was assessed in 14 subjects (7 subjects with PAS₂₅, 7 subjects with PAS₁₀). TMS was performed with a round coil (external diameter, 130 mm) connected to a Magstim 200 stimulator to obtain MEPs. The coil was positioned over the vertex in the optimal scalp position to elicit motor responses in the right APB muscle. The MEP amplitude was measured by using the stimulator

intensity sufficient to evoke a peak-to-peak amplitude of 1 mV in the relaxed APB muscle. MEPs were recorded from the APB muscle using a pair of 2×2 -cm Ag–AgCl disposable surface electrodes in a belly tendon montage. Each parameter was measured before the PAS session, just after the PAS session, and 15, 30, 45, and 60 min after the PAS session.

Each PAS-induced effect on the MEP was studied using a two-way ANOVA of mixed design with the within-subject factor of Time (before PAS vs. after PAS) and the between-subject factor of Intervention (PAS₂₅ vs. PAS₁₀).

Statistical analysis

Data were analyzed using ANOVAs in SPSS for Windows, version 11.5. Whole analyses could assume the sphericity was not violated. When the effect was significant, a post hoc Dunnett's paired *t*-test was performed on the data. The statistical analyses were carried out on absolute amplitude values to compare variables before and after PAS, whereas normalized amplitudes were described in Figs. 3, 4, 5, and 6. A value of $P < 0.05$ was considered to be statistically significant. Data were expressed as mean \pm standard error of the mean.

Results

Experiment 1: effects on SEPs and HFOs after PAS over the motor cortex

Figure 3 reveals the comparison between changes in SEPs and HFOs after PAS₂₅ and PAS₁₀ over the motor cortex. A three-way ANOVA of mixed design revealed no significant three-way interactions, but did reveal significant two-way interactions for Time \times Intervention (early HFOs: $F_{(1,56)} = 9.648$, $P = 0.003$; late HFOs: $F_{(1,56)} = 18.224$, $P < 0.001$; total HFOs: $F_{(1,56)} = 16.339$, $P < 0.001$; P14–N20: $F_{(1,56)} = 5.847$, $P = 0.019$; N20–P25: $F_{(1,56)} = 4.684$, $P = 0.035$; P25–N33: $F_{(1,56)} = 15.549$, $P < 0.001$). Separate two-way, repeated-measures ANOVAs on SEPs and HFOs following PAS₂₅ and PAS₁₀ revealed no significant Time \times Recording Site interactions, whereas the ANOVAs on SEPs and HFOs following PAS₂₅ showed significant main effects of Time (early HFOs: $F_{(1,28)} = 8.463$, $P = 0.007$, late HFOs: $F_{(1,28)} = 19.615$, $P < 0.001$; total HFOs: $F_{(1,28)} = 15.574$, $P < 0.001$; P14–N20: $F_{(1,28)} = 5.051$, $P = 0.033$; N20–P25: $F_{(1,28)} = 5.967$, $P = 0.021$; P25–N33: $F_{(1,28)} = 13.126$, $P = 0.001$). Neither SEPs nor HFOs following PAS₁₀ revealed significant main effects. One-way, repeated-measures ANOVA revealed that HFOs and N20–P25 and P25–N33 amplitudes from C3'–Fz increased significantly following PAS₂₅ relative to the pre-PAS₂₅ values (early

HFOs: $F_{(1,14)} = 14.356$, $P = 0.002$; late HFOs: $F_{(1,14)} = 22.561$, $P < 0.001$; total HFOs: $F_{(1,14)} = 24.291$, $P < 0.001$; N20–P25: $F_{(1,14)} = 6.179$, $P = 0.026$; P25–N33: $F_{(1,14)} = 14.747$, $P = 0.001$), and there was a significant decrement in the P25–N33 amplitude from C3'–Fz following PAS₁₀ relative to the pre-PAS₁₀ value ($F_{(1,14)} = 11.501$, $P = 0.004$), as shown in Figs. 2, and 3. There were no significant main effects on the P14–N20 amplitude from C3'–Fz. SEPs and HFOs recorded from C4'–Fz did not show significant main effects, either. For the P22–N30 amplitude from F3–A2, two-way, repeated-measures ANOVA revealed no significant main or interaction effects.

The averaged latency of the N20-component from C3'–Fz was 17.85 ± 0.87 in the present study.

Experiment 2: time courses of changes in SEPs and HFOs after PAS over the motor cortex

Figure 4 reveals the comparison between time courses of changes in SEPs (Fig. 4b) and HFOs (Fig. 4a) after PAS₂₅ and PAS₁₀ over the motor cortex. One-way, repeated-measures ANOVA revealed that the late and total HFOs and the P25–N33 amplitude recorded from C3'–Fz changed significantly following PAS₂₅ (late HFOs: $F_{(3,21)} = 24.075$, $P = 0.002$; total HFOs: $F_{(3,21)} = 16.852$, $P = 0.010$; P25–N33: $F_{(3,21)} = 6.916$, $P = 0.046$), whereas the early HFOs and the P14–N20 and N20–P25 amplitudes did not (Fig. 4). Post hoc analysis revealed that the amplitude of the late HFOs and P25–N33 increased significantly for 60 min from just after PAS₂₅ relative to the pre-PAS₂₅ values (late HFOs: 0–20 min, $P = 0.039$; 20–40 min, $P = 0.002$; 40–60 min, $P = 0.022$; P25–N33: 0–20 min, $P = 0.033$; 20–40 min, $P = 0.001$; 40–60 min, $P = 0.003$). The amplitude of the

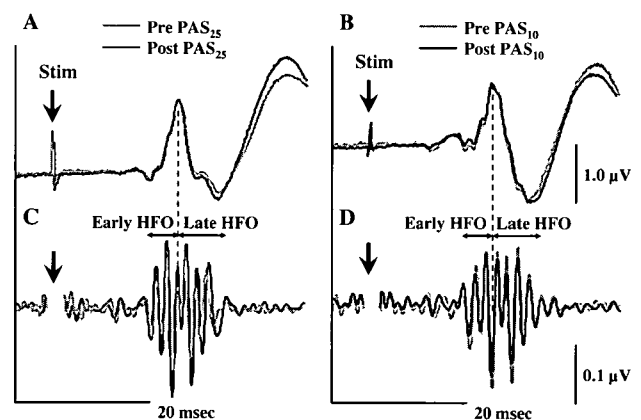


Fig. 2 Typical SEPs (upper traces) and HFOs (lower traces) from C3'–Fz were obtained in a subject before and after paired-associative stimulation (PAS). Waveforms before and after PAS were superimposed. **a, b** The N20–P25 and P25–N33 amplitudes increased/decreased significantly after PAS_{25/10}. **c, d** HFO amplitudes were enlarged/reduced significantly after PAS_{25/10}

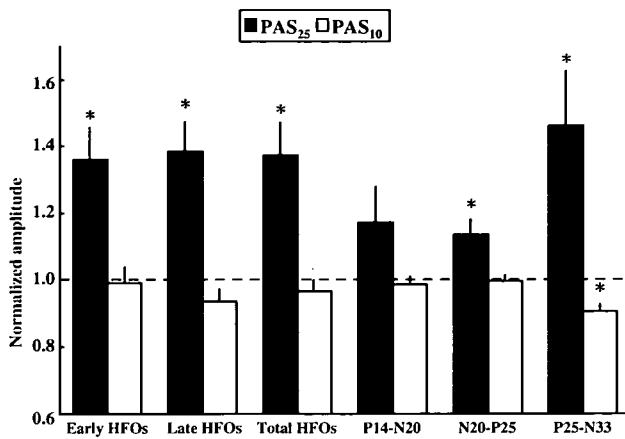
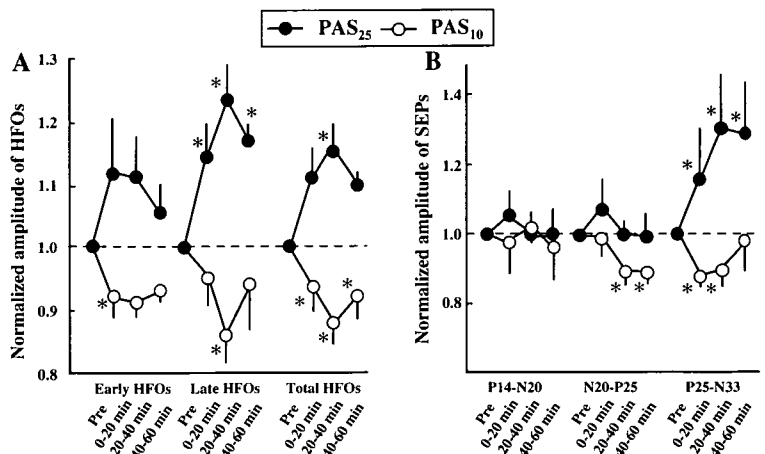


Fig. 3 The effect of PAS on SEP and HFO amplitudes. The size ratios (just after PAS/pre PAS) of the components of the HFOs (early, late, and total HFOs) and SEPs (P14–N20, N20–P25, and P25–N33) from C3’–Fz are shown. The HFO amplitudes and the N20–P25 and P25–N33 amplitudes recorded from C3’–Fz increased significantly following PAS₂₅, whereas the P25–N33 amplitude from C3’–Fz decreased following PAS₁₀. **P* < 0.05 by a one-way analysis of variance (ANOVA) with Time (before PAS vs. just after PAS) as a within-subject factor. Error bar standard error of the mean

total HFOs increased for only 20–40 min after PAS₂₅ relative to the pre-PAS₂₅ value (0–20 min, *P* = 0.068; 20–40 min, *P* = 0.012; 40–60 min, *P* = 0.118). One-way, repeated-measures ANOVA revealed that the HFOs and the N20–P25 and P25–N33 amplitudes from C3’–Fz decreased significantly after PAS₁₀ (early HFOs: $F_{(3,18)} = 6.619$, *P* = 0.049; late HFOs: $F_{(3,18)} = 11.795$, *P* = 0.019; total HFOs: $F_{(3,18)} = 24.499$, *P* = 0.005; N20–P25: $F_{(3,18)} = 9.311$, *P* = 0.001; P25–N33: $F_{(3,18)} = 55.533$, *P* = 0.001). As shown in Fig. 4, post hoc analysis revealed that the N20–P25 amplitude decreased significantly from 20 min after PAS₁₀ relative to the pre-PAS₁₀ value (0–20 min, *P* = 0.951; 20–40 min, *P* = 0.003; 40–60 min, *P* = 0.002). The P25–N33 amplitude decreased from just after to 40 minutes after PAS₁₀ relative to the pre-PAS₁₀ value (0–20 min, *P* = 0.003; 20–40 min, *P* = 0.019; 40–60 min,

Fig. 4 Time courses of changes in SEPs and HFOs after PAS. The size ratios (post PAS/pre PAS) of **a** components of HFOs and **b** SEPs from C3’–Fz are shown. The late HFO and the P25–N33 amplitudes increased significantly after PAS₂₅ and lasted for 60 min. The N20–P25 and P25–N33 amplitudes decreased notably for more than 30 min after PAS₁₀. The HFOs also decreased after PAS₁₀ and lasted for 60 min



P = 0.681). The HFOs were reduced notably from just after PAS₁₀ relative to the pre-PAS₁₀ values (early HFOs: 0–20 min, *P* = 0.040; 20–40 min, *P* = 0.053; 40–60 min, *P* = 0.078; late HFOs: 0–20 min, *P* = 0.459; 20–40 min, *P* = 0.014; 40–60 min, *P* = 0.180; total HFOs: 0–20 min, *P* < 0.001; 20–40 min, *P* < 0.001; 40–60 min, *P* < 0.001). There was no significant change in the SEPs and HFOs from C4’–Fz and in the SEPs from F3–A2 after both PAS sessions.

Experiment 3: comparison of the effects of PAS over the motor cortex with those of PAS over the somatosensory cortex

Figure 5a, b reveals the comparison between changes in SEPs and HFOs after PAS_{25/10} over the motor cortex and after PAS_{25/10} over the somatosensory cortex. With the PAS₂₅ intervention, two-way, ANOVA of mixed design revealed that the HFO and SEP amplitudes recorded from C3’–Fz displayed statistically significant Time × Stimulation Site interactions (late HFOs: $F_{(1,20)} = 6.328$, *P* = 0.021; total HFOs: $F_{(1,20)} = 5.975$, *P* = 0.024; N20–P25: $F_{(1,20)} = 6.807$, *P* = 0.017; P25–N33: $F_{(1,20)} = 4.748$, *P* = 0.041) and main effects of Stimulation Site (early HFOs: $F_{(1,20)} = 6.188$, *P* = 0.022; late HFOs: $F_{(1,20)} = 7.323$, *P* = 0.014; total HFOs: $F_{(1,20)} = 7.384$, *P* = 0.013), as shown in Fig. 5. These results revealed that the effects of PAS₂₅ depended on the stimulation site. Separate one-way, repeated-measures ANOVAs revealed that the HFOs and the N20–P25 and P25–N33 amplitudes increased significantly after PAS₂₅ over the motor cortex (Experiment 1), whereas there were no significant changes after PAS₂₅ over the somatosensory cortex relative to the pre-PAS₂₅ values (early HFOs: $F_{(1,6)} = 0.006$, *P* = 0.939; late HFOs: $F_{(1,6)} = 0.098$, *P* = 0.764; total HFOs: $F_{(1,6)} = 0.017$, *P* = 0.899; N20–P25: $F_{(1,6)} = 3.628$, *P* = 0.105; P25–N33: $F_{(1,6)} = 1.826$, *P* = 0.225). With the PAS₁₀ intervention, the P25–N33 amplitude from C3’–Fz displayed a statistically significant

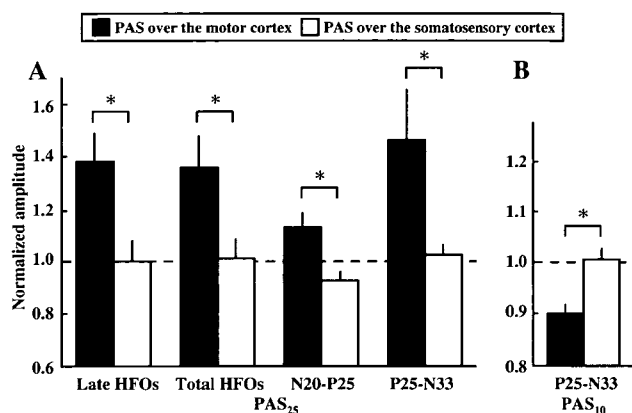


Fig. 5 a, b Comparison of the effects of PAS over the motor cortex with those of PAS over the somatosensory cortex. The size ratios (post PAS/pre PAS) of components of HFOs and SEPs from C3'–Fz are shown. SEPs and HFOs after PAS over the motor cortex changed significantly, whereas there was no change after PAS over the somatosensory cortex

Time \times Stimulation Site difference ($F_{(1,20)} = 4.938$, $P = 0.038$), as shown in Fig. 5. These results revealed that the effects of PAS₁₀ depended on the stimulation site. Separate one-way, repeated-measures ANOVAs revealed that the P25–N33 amplitude decreased notably after PAS₁₀ over the motor cortex (Experiment 1), but there was no significant change after PAS₁₀ over the somatosensory cortex relative to the pre-PAS₁₀ value ($F_{(1,6)} = 0.001$, $P = 0.993$). There were no statistically significant main or interaction effects on the SEPs and HFOs from C4'–Fz.

Experiment 4: the effect of PAS over the motor cortex on motor cortical excitability

Figure 6 reveals the comparison between time courses of changes in MEPs after PAS₂₅ and PAS₁₀ over the motor cortex. There was a significant pattern of change in the MEP amplitude following the PAS intervention ($F_{(5,60)} = 5.905$, $P = 0.014$) with factors of Time \times Intervention (Fig. 6). Post hoc analysis showed that a significant increment in the MEP amplitudes continued from 15 to 45 min after PAS₂₅ relative to the pre-PAS₂₅ values (0 min, $P = 0.094$; 15 min, $P = 0.006$; 30 min, $P = 0.005$; 45 min, $P = 0.027$; 60 min, $P = 0.982$), and a significant decrement in the MEP amplitudes following PAS₁₀ lasted for 60 min relative to the pre-PAS₁₀ values (0 min, $P = 0.002$; 15 min, $P = 0.002$; 30 min, $P = 0.010$; 45 min, $P = 0.015$; 60 min, $P = 0.018$).

Discussion

This study revealed that PAS over the motor cortex changed the cortical excitability in a distant site, the

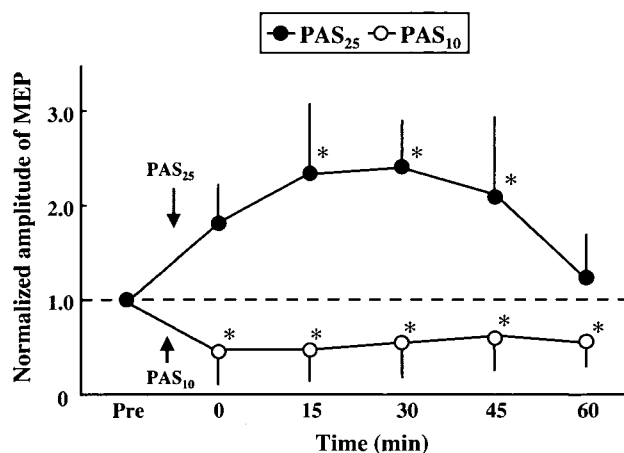


Fig. 6 Effects of PAS on motor-evoked potentials (MEPs). The size ratios (post PAS/pre PAS) of the MEPs are shown. The MEPs were enlarged/reduced significantly following PAS_{25/10}, and these effects lasted for more than 30 min

somatosensory cortex. The cortical components of SEPs from C3'–Fz increased significantly after PAS₂₅, whereas changes in the cortical SEPs were reversed after PAS₁₀. The HFOs from C3'–Fz were enlarged significantly after PAS₂₅, whereas the HFOs decreased notably after PAS₁₀. Since these changes lasted more than 30 min, it was revealed that the LTP/LTD-like phenomena occurred on the SEPs and HFOs, respectively. There were no effects on the SEPs and HFOs following PAS over the somatosensory cortex.

Changes in SEPs and MEPs after PAS

The PAS-induced increment/decrement of cortical excitability was distinctly timing dependent (Stefan et al. 2002; Wolters et al. 2003, 2005). In the classical model of associative, Hebbian plasticity, synaptic transmission is strengthened when a presynaptic neuron is activated before activation of the postsynaptic neuron, whereas the opposite effect is induced when the sequence of events is reversed. Afferent inputs elicited by median nerve stimulation reach the somatosensory cortex at the latency of the N20 component of the SEPs (Allison et al. 1989). In humans, a peripheral somatosensory signal generally reaches the motor cortex 4 ms after the arrival of the signal in the somatosensory cortex (Goldring et al. 1970). Since the latency of the N20-component of the SEPs was 17.85 ± 0.87 ms in the present study, the events triggered by TMS also followed the events elicited by median nerve stimulation in the motor cortex at PAS₂₅ (PAS₂₅; ISI = 25 ms > N20-latency + 4 ms), whereas the sequence of events was reversed at PAS₁₀ (PAS₁₀; ISI = 10 ms < N20-latency + 4 ms). Therefore, these results indicated that the LTP/LTD-like phenomena were produced in the motor cortex with PAS_{25/10} over the motor cortex.

The N20–P25 and P25–N33 amplitudes changed after PAS over the motor cortex in the present SEP study. The origin of each SEP component is different. P14 is probably generated from a subcortical structure, the caudal medial lemniscus (Noel et al. 1996), and N20 is thought to be generated from the somatosensory cortex in the posterior lip of the central fissure (Nuwer et al. 1994). The later potentials (P25, N33, and later potentials) are usually assumed to represent the arrival of the sensory volley at the somatosensory cortex (Tsuji and Rothwell 2002). A previous study revealed that low-frequency repetitive TMS (rTMS) over the motor cortex suppressed the N20–P25 amplitude without any changes in the N20_{onset}–N20_{peak} amplitudes. The authors speculated that this suppression occurred in the somatosensory cortex, because the N20 component reflects an activation of the somatosensory cortex by thalamocortical fibers (Enomoto et al. 2001). In the present study, not the P14–N20, but the N20–P25 and P25–N33 amplitudes changed after intervention. Therefore, we speculated that PAS over the motor cortex did not affect subcortical pathways, but did affect the later processes, including the somatosensory cortex. These results are similar to those of previous studies (Enomoto et al. 2001; Tsuji and Rothwell 2002).

The cortical SEP components changed significantly following PAS_{25/10} over the motor cortex, and these effects lasted for more than 30 min, as in our MEP study, whereas PAS_{25/10} over the somatosensory cortex produced no significant SEP changes. We offer the following two reasons for this discrepancy. One reason is the ISIs of PAS. A previous SEP study suggested that PAS over the somatosensory cortex caused the LTP/LTD-like phenomena in the somatosensory cortex, but the ISIs of PAS over the somatosensory cortex were shorter by 6.8 ms than those over the motor cortex. Therefore, PAS_{25/10} over the somatosensory cortex could not produce such phenomena in the somatosensory cortex (Wolters et al. 2005). In the present study, no significant SEP changes were obtained for the same reason. Another reason is that a difference in the sensitivity to TMS effects between the motor and somatosensory cortices might exist. Low-frequency rTMS over the motor cortex suppressed the cortical SEP for a long time via the cortico-cortical connections between the motor and somatosensory cortices, whereas low-frequency rTMS directly over the somatosensory cortex had a slight facilitatory effect of SEP, and this effect lasted a few minutes (Enomoto et al. 2001). In a continuous theta burst stimulation (cTBS) study, SEP changes following cTBS over the somatosensory cortex were shorter than MEP and SEP changes following cTBS over the motor cortex. The authors speculated that this discrepancy was caused by a threshold difference for TMS effects between the motor and the somatosensory cortices (Ishikawa et al. 2007). Because the stimulus paradigm in

the present study was different from those in the previous studies, we could not compare our results directly to the previous results. However, TMS effects over the somatosensory cortex are weaker than those over the motor cortex. We suppose that the threshold for TMS effects over the somatosensory cortex may be higher than that over the motor cortex. Consequently, we speculated that the LTP/LTD-like phenomena in the motor cortex induced by PAS_{25/10} over the motor cortex were not caused in the somatosensory cortex directly, but might spread to the somatosensory cortex, since the dense cortico-cortical connections exist between the motor and somatosensory cortices, and the same LTP/LTD-like effects appeared in the somatosensory cortex. These SEP results are in line with previous MEP results (Stefan et al. 2002; Wolters et al. 2003).

PAS over the motor cortex did not affect the frontal P22–N30 component from F3–A2 in the present study. This result revealed that the changes in SEPs from C3'–Fz were not contaminated by the frontal P22–N30 component. A previous study reported that the frontal P22–N30 amplitude increased just after a paradigm similar to our PAS₂₅ paradigm: rTMS over the motor cortex paired with a preceding repetitive motor point stimulation (0.1 Hz, ISI of 25 ms), but the effect did not continue for 10 min (Tsuji and Rothwell 2002). The discrepancy could reflect methodological differences. There were different methods of SEP recording in the two studies: in Tsuji and Rothwell's study, 256 stimuli were delivered at 1 Hz; in our study, 5,000 stimuli at about 4–5 Hz were given for about 20 min. Even if the frontal P22–N30 amplitude changed, as in Tsuji and Rothwell's study, the effect would be too short to record in the present study. Therefore, the changes in the SEPs from C3'–Fz after PAS did not affect the frontal component in the present study.

HFOs changes after PAS

In spite of extensive research concerning HFOs superimposed on the N20 primary cortical responses, the origin of HFOs still remains controversial. One hypothesis is that HFOs are generated from GABAergic inhibitory interneurons (Hashimoto et al. 1996). Based on the reciprocal relationship between HFOs and N20 representing an ensemble of EPSPs of the glutamatergic pyramidal neurons in the 3b area, HFOs were postulated to represent a localized activity of GABAergic inhibitory interneurons in layer 4 of area 3b (Curio 2000; Hashimoto et al. 1996, 1999). Although the following hypothesis may be speculative at present, we propose that the HFO changes that occur after PAS reflect the activities of GABAergic inhibitory interneurons.

The close interactions between the glutamatergic pyramidal neurons and the GABAergic inhibitory interneurons

in the cortex have been well established (Porter et al. 2001; Sun et al. 2006a, b). The existence of constant inhibitory regulation of the activity of large pyramidal neurons by the surrounding inhibitory neurons in the sensorimotor cortex was demonstrated (Storozhuk et al. 2003). In the central nucleus of the inferior colliculus, the major structure of the central auditory system, glutamatergic excitation can be modulated by presynaptic GABA_B receptors. This mechanism might serve to prevent overstimulation by feedback inhibition from GABAergic inhibitory interneurons or to maintain an appropriate balance of excitation and inhibition for the neural representation of auditory signals (Sun et al. 2006a, b). There are a number of GABA_B receptors in the presynaptic and postsynaptic membranes of glutamatergic pyramidal neurons, and these receptors modulate glutamatergic neurotransmission in the rat hippocampus (Kulik et al. 2003). GABAergic inhibitory interneurons regulate glutamatergic pyramidal neurons not only by exposing them to the neurotransmitters directly, but also by modulating glutamatergic neurotransmission through GABA_B receptors. The LTP/LTD-like phenomena after PAS are considered to be mediated by the NMDA receptors on postsynaptic glutamatergic neurons (Stefan et al. 2002; Wolters et al. 2003), and numerous NMDA receptors are distributed throughout the brain, including the sensorimotor cortices (Scheperjans et al. 2005). When glutamatergic neurons are facilitated, GABAergic inhibitory interneurons might also be activated by the enhanced glutamatergic neurons, which in turn modulate glutamatergic excitation. Conversely, if glutamatergic neurons are regulated, GABAergic inhibitory interneurons may no longer be modulated. In our study, the HFOs as well as the N20–P25 and P25–N33 amplitudes increased significantly after PAS₂₅. After PAS₁₀, the HFOs and the N20–P25 and P25–N33 amplitudes decreased notably. Because glutamatergic neurons were facilitated by NMDA receptor activation, and GABAergic inhibitory interneurons might be activated secondarily after PAS₂₅, we speculate that the increased N20–P25 and P25–N33 amplitudes and the increased HFO amplitudes reflect the increased activity of pyramidal cells and inhibitory interneurons, respectively. On the other hand, the N20–P25 and P25–N33 amplitudes and the HFO amplitudes decreased notably after PAS₁₀, probably reflecting a down-regulation of glutamatergic neurons and GABAergic inhibitory interneurons. Since a previous animal experiment revealed that a GABA_A antagonist did not affect the HFO activity (Jones and Barth 2002), we speculated that changes in HFOs following PAS over the motor cortex might be produced through GABA_B receptors.

In conclusion, not only the MEP but also the cortical SEPs and HFOs increased/decreased, and these effects continued for more than 30 min after PAS over the motor cortex. These results revealed that the LTP/LTD-like

phenomena in the motor cortex may spread to a distant site, the somatosensory cortex. Enhanced HFOs after PAS₂₅ over the motor cortex may reflect the activation of GABAergic inhibitory interneurons for the purpose of regulating pyramidal neurons in the somatosensory cortex. Because there is no need to modulate deactivated pyramidal neurons after PAS₁₀ over the motor cortex, the HFO activity may be reduced.

Acknowledgments The authors would like to thank Professor Yoshio C. Okada for his insightful comments, and thank Masayoshi Kusumi, MD, PhD, for his insightful comments on statistical analysis. This study was supported by a Grant-in-Aid from the Research Committee on rTMS treatment of movement disorders, the Ministry of Health and Welfare of Japan (17231401).

References

- Allison T, McCarthy G, Wood CC, Williamson PD, Spencer DD (1989) Human cortical potentials evoked by stimulation of the median nerve. II. Cytoarchitectonic areas generating long-latency activity. *J Neurophysiol* 62:711–722
- Curio G (2000) Linking 600-Hz “spikelike” EEG/MEG wavelets (“sigma-bursts”) to cellular substrates: concepts and caveats. *J Clin Neurophysiol* 17:377–396
- Curio G, Mackert BM, Burghoff M, Koetitz R, Abraham-Fuchs K, Harrer W (1994) Localization of evoked neuromagnetic 600 Hz activity in the cerebral somatosensory system. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 91:483–487
- Curio G, Mackert BM, Burghoff M, Neumann J, Nolte G, Scherg M, Marx P (1997) Somatotopic source arrangement of 600 Hz oscillatory magnetic fields at the human primary somatosensory hand cortex. *Neurosci Lett* 234:131–134
- Eisen A, Roberts K, Low M, Hoirich M, Lawrence P (1984) Questions regarding the sequential neural generator theory of the somatosensory evoked potential raised by digital filtering. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 59:388–395
- Enomoto H, Ugawa Y, Hanajima R, Yuasa K, Mochizuki H, Terao Y, Shii Y, Furubayashi T, Iwata NK, Kanazawa I (2001) Decreased sensory cortical excitability after 1 Hz rTMS over the ipsilateral primary motor cortex. *Clin Neurophysiol* 112:2154–2158
- Gobbele R, Buchner H, Curio G (1998) High-frequency (600 Hz) SEP activities originating in the subcortical and cortical human somatosensory system. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 108:182–189
- Goldring S, Aras E, Weber PC (1970) Comparative study of sensory input to motor cortex in animals and man. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 29:537–550
- Hashimoto I, Mashiko T, Imada T (1996) Somatic evoked high-frequency magnetic oscillations reflect activity of inhibitory interneurons in the human somatosensory cortex. *Electroencephalogr Clin Neurophysiol* 100:189–203
- Hashimoto I, Kimura T, Fukushima T, Iguchi Y, Saito Y, Terasaki O, Sakuma K (1999) Reciprocal modulation of somatosensory evoked N20m primary response and high-frequency oscillations by interference stimulation. *Clin Neurophysiol* 110:1445–1451
- Ishikawa S, Matsunaga K, Nakanishi R, Kawahira K, Murayama N, Tsuji S, Huang YZ, Rothwell JC (2007) Effect of theta burst stimulation over the human sensorimotor cortex on motor and somatosensory evoked potentials. *Clin Neurophysiol* 118:1033–1043